

平成7年度版

# こころの健康センター所報

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

## はじめに

平成7年12月、国の障害者プラン（ノーマライゼーション7ヶ年戦略）が公表されました。障害者基本法の理念を踏まえ、精神障害者も、他の障害と同じように社会的サービスが保証され、社会資源については平成14年までに整えられるべき数値目標が掲げられました。

昭和62年の精神保健法から、平成7年の精神保健福祉法、そしてこの障害者プランに到って、ようやく精神障害者の社会復帰、社会参加が制度上の保証を得たこととなります。

三重県でも、デイケアや小規模作業所等を拠点としてそれなりの社会参加にチャレンジする精神障害者が増加しつつあるかと思われます。家庭と病院しかなかった一時代前に比べると隔世の感がありますが、まだまだ利用できる社会資源は限られており、またその周知も充分とはいえない現状です。地域での生活を支えるマンパワーの量や質も懸念されるところです。地域保健福祉行政の今後の行き方とも絡んで、検討が必要かと思われます。

我々のセンターにも、新しく精神障害者福祉が業務に加わりました。平成8年度は、精神障害者の就労相談、自立援助、社会復帰関連施設支援を新しい事業として組み立てました。しかし、福祉的側面でセンターが担うべき役割については、今しばらくの試行錯誤をお許し頂きたいと思います。

最後になりましたが、平成7年度も関係各位のご支援を得て、各事業ともつつがなく終えることができました。この場をかりて、心から厚く御礼申し上げます。

我々のセンターも、県保健予防課の分室として3年、その後独立した出先機関として7年、ちょうど10年経ちました。時代と向き合い、県民の心のニーズに敏感に対応できるセンターであるためには、いかにあるべきか。平成8年初頭には、新しい運営要領も出されました。さらにセンター機能を充実させるべく、皆様のご理解とご助力を賜るよう御願い申し上げます。

平成8年晩夏

三重県こころの健康センター

所長 原 田 雅 典

# 目 次

はじめに

I. こころの健康センター概要	1
1. 沿革	1
2. 業務	1
3. 施設の概要	2
4. 組織及び職員	3
II. こころの健康センターの活動	5
1. 技術指導援助	5
2. 教育研修	9
3. 広報啓発	17
4. 調査研究	23
5. 協力組織の育成	35
6. 心の健康づくり推進	43
7. 精神保健相談	63
III. こころの健康センター図書目録	69

# I. こころの健康センター概要

1. 沿 革

2. 業 務

3. 施設の概要

4. 組織及び職員

## 1. 沿革

### ○ 昭和61年5月

三重県こころの健康センター（精神保健センター）は精神保健法第7条の規定に基づき、地域精神保健活動の技術的中枢機関として、三重県津庁舎津保健所棟1階（津市桜橋3丁目446-34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。

初代所長 原田雅典氏就任。

精神科医師1名、看護婦1名、保健婦1名、事務職1名、計4名の常勤職員が配置される。他に、電話相談員（嘱託）2名配置される。

### ○ 昭和62年4月

精神科ソーシャル・ワーカー（PSW）が初めて配置される。

### ○ 昭和63年10月

三重県久居庁舎（久居市明神町2501-1）の完成に伴い同1階に移転する。

### ○ 平成元年4月

県の出先機関として独立

心理技術者（CP）が初めて配置される。

### ○ 平成6年4月 精神科医師1名増員。

## 2. 業務

当こころの健康センターは、「精神保健センター運営要領」（衛発第194号厚生省公衆衛生局長通知、昭和44年3月24日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

### (1) 技術指導援助

地域精神保健活動を推進するために、保健所及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導ならびに技術援助を行なう。

### (2) 教育研修

保健所で精神保健業務に従事する職員（精神保健担当者、保健婦等）に専門的研修と技術指導を行うほか、関係諸機関の職員には、教育訓練を行い、関係職員の技術的水準の向上を図る。

### (3) 広報啓発

一般住民に対する精神保健知識の普及啓発を行うとともに、保健所が行う広報普及活動に対して専門的立場から指導と援助を与える。

### (4) 調査研究

地域精神保健活動を推進するために、必要な精神保健上の諸問題を調査研究するとともに、精神保健に関する統計及び資料を収集整備する。

### (5) 協力組織の育成

地域精神保健の向上を図るために、精神医療施設や保健所その他の関係諸機関を単位としてつくられた協力組織の育成を図るとともに、他方、都道府県単位の組織を育成強化することに努め、地

域精神保健活動に対する住民の協力参加や各種社会資源の活用を円滑に行う。

(6) 心の健康づくり推進

近年の社会生活環境の複雑化に伴い県民各層の間において、ストレスが増大し、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加している。これらの精神疾患に関する相談窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより住民の精神的健康を図る。

(7) 精神保健相談

保健所並びに関係諸機関が取り扱った事例のうち、複雑又は困難なものにつき実施する。また、これらのほか、一般住民の心の健康の保持、向上のために専門的な立場から相談指導を行う。

### 3. 施設の概要

(1) 所在地

[昭和61年5月1日～昭和63年10月8日]

三重県津市桜橋3丁目446-34 三重県津庁舎津保健所棟1階

[昭和63年10月9日以降]

三重県久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎1階

(2) 施設の状況

[昭和61年5月1日～昭和63年10月8日]

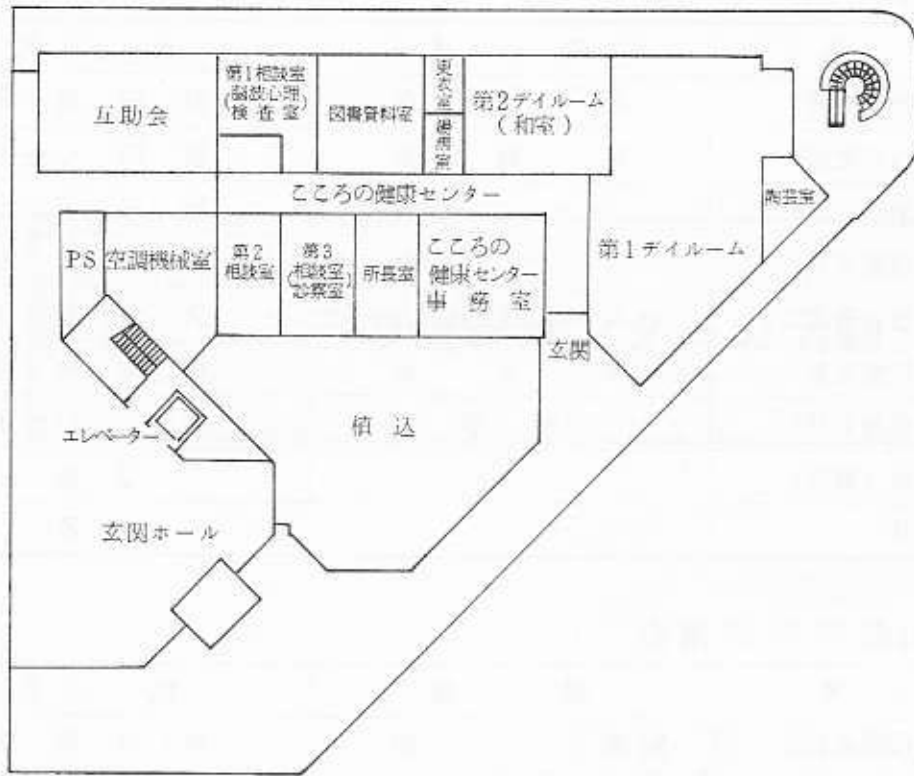
三重県津庁舎津保健所棟1階 1室 52.9㎡

[昭和63年10月9日以降]

三重県久居庁舎1階

ア	敷地面積(久居庁舎)	11,617.29	㎡
イ	建物面積(本館棟)	延床面積	5,484.50
ウ	建物構造(本館棟)	鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建	
エ	当センター占有面積	723.0	
オ	各室面積		
	事務室(電話相談室、所長室)	65.2	第1デイルーム 140.4
	第1相談室(脳波、心理検査室)	30.8	第2デイルーム(和室) 44.8
	第2相談室	23.9	陶芸室 11.3
	第3相談室(診察室)	26.5	更衣室、湯沸室 12.0
	図書資料室	37.0	各室面積 計 391.9

三重県こころの健康センター平面図



4. 組織及び職員

所掌事務





職員構成

[平成7年度]

職 名	職 種	氏 名
所 長 (技術吏員)	医 師	原 田 雅 典
副参事 (技術吏員)	保 健 婦	倉 田 つや子
主 幹 (事務吏員)	ソーシャルワーカー	堀 田 重 行
主 幹 (技術吏員)	医 師	松 崎 ま み
主 査 (技術吏員)	心 理 技 術 者	久 保 早百合
主 査 (技術吏員)	保 健 婦	橋 本 晴 美
主 事 (事務吏員)	一 般 事 務	林 一 子
電話相談員 (嘱託)		2 名
計		9 名

[平成8年度]

職 名	職 種	氏 名
所 長 (技術吏員)	医 師	原 田 雅 典
副参事 (技術吏員)	保 健 婦	青 島 昭 子
主 幹 (事務吏員)	ソーシャルワーカー	堀 田 重 行
主 幹 (技術吏員)	医 師	松 崎 ま み
主 幹 (技術吏員)	心 理 技 術 者	久 保 早百合
主 査 (技術吏員)	保 健 婦	橋 本 晴 美
主任主事 (事務吏員)	一 般 事 務	林 一 子
電話相談員 (嘱託)		2 名
計		9 名



## Ⅱ. こころの健康センターの活動

1. 技術指導援助
2. 教育研修
3. 広報啓発
4. 調査研究
5. 協力組織の育成
6. 心の健康づくり推進
7. 精神保健相談

## 1. 技術指導援助

### ＜技術指導援助＞

地域精神保健福祉活動の推進を図るため、保健所をはじめとして福祉、教育、その他の関係諸機関及び団体に対しその要請に応じて事例検討会、ケースコンサルテーション、研修会での講演、講義等技術指導援助を実施している。

平成7年度の技術指導援助は701回であった。平成6年度には減少したものの、経年的に見てみると平成元年を100とした指数はそれぞれ平成2年度は167.1、平成3年度190.6、4年度247.7、5年度271.9、6年度207.0、7年度273.8と増加している。

指導援助機関別にその指導状況を見てみると保健所が一番多く全体の38.8%を占めており、次いで教育機関、行政機関、医療機関となり、この順位は開設当初からあまり変動は見られない。又その他の機関においてもそれぞれの指導援助回数は増加している。

保健所への指導援助回数は270回であり、その内容は地域で生活しているケースへの援助方法、事例検討である。昨年に比すると全体で1.4倍と増加しており特に、ケースへの援助方法指導は2.9倍と増加している。事例検討会は30回開催され35例について検討されている。

また、地域における精神保健福祉対策事業の企画に関する助言指導や地域精神保健福祉連絡会議への参加の機会も増えてきている。

平成7年度 技術指導援助実施状況

機関名	内容回数等	実施回数	参加人数	指導援助内容					職種別援助回数			
				ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会 健康教育	その他	医師 (2名)	ソーシャル ワーカー (1名)	保健婦 (2名)	心理技師 (1名)
保健所		270	1,944	43	31	28	15	153	81	26	105	92
福祉機関		31	396	7	—	—	5	19	6	2	11	13
医療機関		60	601	8	—	—	1	51	36	4	6	14
行政機関		103	765	8	—	—	5	90	46	5	25	27
教育機関		106	2,379	44	—	—	21	41	37	—	7	64
市町村		37	287	18	—	—	4	15	9	—	8	20
労働機関		22	22	—	—	—	—	22	4	3	6	11
司法機関		2	37	1	—	—	—	1	1	—	—	1
精神保健団体		31	288	2	—	—	—	29	5	2	16	8
学生教育実習		9	158	1	—	—	—	8	2	1	4	6
その他		30	407	3	—	—	1	26	15	—	10	5
計		701	7,284	135	31	28	52	455	242	43	198	261

保健所への技術指導援助実施状況（再掲）

保健所名	内容回数等	実施回数	参加人数	指導援助内訳					職種別援助回数			
				ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会健康教育	その他	医師(2名)	ソーシャルワーカー(1名)	保健婦(2名)	心理技術者(1名)
桑名		21	221	1	3	2	4	11	3	2	8	12
四日市		28	140	9	5	-	1	13	5	1	8	17
鈴鹿		22	225	1	2	4	3	12	6	2	11	6
津		42	225	5	4	4	-	29	12	3	17	12
久居		26	117	5	2	6	1	12	9	5	7	7
松阪		29	202	6	-	-	1	22	3	2	13	16
伊勢		18	220	2	2	1	2	11	12	-	4	4
志摩		23	189	2	1	4	-	16	9	3	9	7
上野		27	174	5	7	1	1	13	11	3	14	5
尾鷲		22	155	6	3	-	2	11	8	2	10	3
熊野		12	76	1	2	6	-	3	3	3	4	3
計		270	1,944	43	31	28	15	153	81	26	105	92

平成7年度 保健所事例検討会における検討事例

保健所名	実施月日	事 例
桑 名	7. 6. 9	依存的になりがちなアルコール依存傾向のある単身の精神遅滞ケースの支援
	7. 9. 13	精神分裂病患者とアルコール依存の兄を抱えたその家族へのかかわりと今後の対応
	8. 2. 21	精神的に未熟で難治性糖尿病を合併した女性が母となり育児をするケースにかかわって
四 日 市	7. 5. 24	生活能力が乏しく児を虐待するケースをどう地域で支えていくか
	7. 7. 26	アルコール依存症のケースにかかわって
	7. 9. 27	とじこもりのケースの家族とのかかわりー今後の援助のすすめかたー
	7. 11. 22	受診を中絶しては入退院を繰り返してきたケースへのかかわり
	8. 1. 24	近隣への被害妄想で入退院を繰り返す単身のM氏
鈴 鹿	7. 7. 12	アルコール依存症の夫と精神分裂病の妻への支援
	7. 11. 29	境界型人格障害のケースとのかかわり
津	7. 7. 7	地域で精神障害者を支えるための取り組みについて
	7. 9. 26	母子家庭で被害意識の強い母親とかわって
	8. 2. 6	単身者の危機対応を含めた在宅支援体制づくり
	〃	独居の精神障害者の在宅支援体制づくり
久 居	8. 1. 19	閉じこもりのケースとかわって
	8. 3. 6	近隣に迷惑行為を繰り返すケース
伊 勢	7. 9. 19	デイケア参加困難事例について考える
	7. 11. 30	妄想が強くラポール形成が困難なケースへのかかわり
	〃	在宅精神障害者への支援
志 摩	8. 1. 26	10年間 閉じこもりを続けているケースへの対応
上 野	7. 5. 26	世代交代に伴うこれからのケースのかかわりについて
	7. 7. 28	日中一人で過ごすケースへのかかわりについて考える

保健所名	実施月日	事例
七 野	7. 9. 1	青山町における精神障害者の家族交流会設置について
	7. 10. 13	能力低下があり家族が対応に困っているケース
	7. 12. 15	「精神病ではない」と受診せずプライドの高いケースとのかかわり
	8. 1. 17	一人暮らし老人で被害妄想のあるケースの支援
	8. 3. 15	就労への焦りがとれず失敗を繰り返すケースの支援
尾 鷲	7. 7. 25	不安の強い単身のケースを支えるネットワーク
	〃	かかわりが困難な病識のないケースへの支援
	7. 10. 24	周囲の反対をおしてした精神障害者同士の結婚が、暴力を伴うトラブルが絶えないため短期間に破綻し離婚後も相互干渉が続いているケース
	8. 3. 12	一人暮らしで入退院を繰り返す精神分裂病患者を地域で支える
熊 野	7. 8. 24	うつ傾向の男性における就労指導上の留意点について
	〃	退院後訪問拒否のある精神分裂病患者へのかかわり
	8. 2. 23	退院拒否のケースと家族への支援
	〃	しきりに受診を望む父とかたくなに受診を拒む母にかかわって

## 2. 教 育 研 修

(1) 研 修 会

(2) 学生の教育実習等



昭和61年5月、県保健予防課分室として開設された当センターは、主に保健衛生機関の職員を中心とした研修会を実施してきた。

平成元年4月1日付けで県の出先機関としてスタートし本格的に活動を開始した。三重県における精神保健の向上を図る総合的な技術中枢機関としての立場から保健衛生関係外の関連諸機関を対象とした研修を実施している。

平成7年度も昨年同様、8本の柱で実施した。福祉、教育、医療、労働、司法等、精神保健福祉推進のため、関連のある機関との連携も教育研修を機として深まってきていると感じる。

又、センターの整備に伴い見学、実習等も増加した。この見学、実習が精神保健福祉活動への理解を深める機になればと願っている。

教育研修、見学、実習等の実施状況は表のとおりである。又、各々の教育研修については後に詳しく述べる。

#### 平成7年度 教育研修実施実績

##### (1) 研 修 会

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健担当者研修会	平成7年5月31日	市町村、県・市福祉事務所、保健所の関係者	50名
精神保健事例検討会	平成7年9月12日	教育関係者	50
児童(青年)精神保健研修会	平成7年12月2日 12月3日	福祉、教育、医療、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	87 90
酒害保健研修会	平成7年5月13日 5月14日 11月8日	福祉、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	190 144 81
地域精神保健研修会	平成8年2月20日	福祉、教育、医療、労働、保健衛生、精神保健団体、その他の関係者	180
精神保健専門講座 (精神保健福祉相談員継続研修会)	平成7年7月31日 8月2日 8月8日 8月9日	市町村、県・市福祉事務所、保健所の関係者	延べ 65
老人精神保健研修会	平成7年6月29日	福祉、医療、保健、老人施設、その他の関係者	166
社会復帰指導者研修会	平成7年9月～ 平成8年3月 月曜日 年21回	保健所精神保健担当者	94

計34回 1,200名

(ア) 新任精神保健担当研修会

精神保健についての概要を理解し、地域に於ける精神保健活動の推進を図る。

日 程	内 容
平成7年5月19日(金) 10:00~16:00	<p>I. こころの健康センター事業概要 センター主幹 堀 田 重 行</p> <p>II. 講義</p> <p>① 精神保健のあらまし センター所長 原 田 雅 典</p> <p>② 精神保健相談のすすめ方 センター主査 久 保 早百合</p> <p>③ 精神疾患のあらまし センター主幹 松 崎 ま み</p> <p>④ 地域における精神保健活動 センター副参事 倉 田 つや子</p>

(イ) 精神保健事例検討会

不登校の事例を通して現代の中、高校生のもつ心の問題を知り、学校保健における精神保健活動のあり方について考える。

日 程	内 容
平成7年9月12日(火) 13:30~16:30	<p>事例名 「不登校」</p> <p>事例提供者 三重県立名張桔梗ヶ丘高等学校養護教諭 居 附 育 子</p> <p>助言者 三重県立小児心療センター あすなる学園医長 西 田 寿 美</p>

(ウ) 児童(青年)精神保健研修会

講義、事例検討等をとおして今、子どもの中に起っているいじめ、非行、不登校、自殺、家庭内暴力等の問題や「性」について考え、今後のあり方について検討する。

日 程	内 容
<p>平成7年12月2日(土) 10:00~17:00</p>	<p>◎講義 「思春期とその家族を考える」 講師 東京慈恵会医科大学教授 牛 島 定 信</p> <p>◎グループケースカンファレンスⅠ 事例提供 ・「幼児期に小児神経症であったケースのいじめ問題にかかわって」 松阪保健所 中 島 博 子 ・「不登校」 松阪教育研究所 高 橋 光 彦 ・「メンタルフレンドを利用した不登校の事例から」 東濃児童相談所 水 谷 友 則</p> <p>◎グループケースカンファレンスⅡ ・「子離れに葛藤する母親」 北勢児童相談所 澤 田 和 重 ・「MRIモデルによるストラジティックアプローチ」 県立川越高等学校 水 谷 久 康 ・「不登校」 鈴鹿市立白鳥中学校 片 岡 敦 子</p>
<p>平成7年12月3日(日) 10:00~16:00</p>	<p>◎講義 「傷ついた子どもをどう支えるか」 講師 武蔵野赤十字病院臨床心理課長 斉 藤 慶 子</p> <p>◎講義 「思春期問題とその対応策としてのネットワーク」 講師 県立小児心療センターあすなる学園長 清 水 将 之</p> <p>◎パネルディスカッション テーマ「児童思春期問題への対応」 コーディネーター 前 掲 清 水 将 之 こころの健康センター所長 原 田 雅 典</p>

パネリスト	
小児心療センターあすなる学園医長	西田 寿美
南勢志摩児童相談所長	訓 覇 尊 雄
三重県総合教育センター研修主事	森 川 泉
愛知県精神保健福祉センター 企画指導室課長補佐	辻 築 久 子
コメンテーター 前掲	牛 島 定 信
	前掲 齊 藤 慶 子

(エ) 酒害保健研修会

アルコール依存症は年々増加の傾向にあり、世界的にも大きな社会問題となっている。

また、アルコールに起因する問題は多岐に亘り多くの家族崩壊をきたしている。

アルコール依存症について適切な支援が展開できるよう関係者がその病理について正しく理解することが大切である。

アルコール依存症者の予防と早期治療をめざして、依存症者とその家族を支援していくうえでの方策を考えることを目的とした。

日 程	内 容
平成7年5月13日(土) 13:00~17:00	アルコール関連問題 — その支援と連携を考える — 第1分科会 内科医療との連携 話題提供 毎熊 弘美 (ワーカー) 西淀病院 三谷 明美 (看護) 小杉記念病院 遠藤 太久郎 (医師) 市立伊勢総合病院 司会 西山 昌伸 (医師) 高茶屋診療所 植松 直道 (医師) 小杉記念病院  第2分科会 ACへの支援の方法 話題提供 山中 すなお (看護) 三重県立高茶屋病院 西川 京子 (ワーカー) 新阿武山クリニック 高部 美夫 (ワーカー) 稲垣診療所 正木 茂男 (ワーカー) 東布施クリニック 上田 智香 (ワーカー) 宋神経科クリニック 佐古 恵利子 (ワーカー) 小杉クリニック本院 司会 大越 崇 (医師) 三重県立高茶屋病院 平野 健二 (医師) 新阿武山クリニック

	<p>第3分科会 家族への支援の方法</p> <p>話題提供 杉野 健二 (心理) 三重県立高茶屋病院  上利 久芳 (ワーカー) 聖家族の家  笹井 倫子 (精神保健相談員) 大阪府東住吉保健所  泉 洋一 (精神保健相談員) 奈良保健所</p> <p>司会 猪野 亜朗 (医師) 三重県立高茶屋病院  三品 林子 (精神保健相談員) 京都府立精神保健センター</p> <p>第4分科会 本人への支援</p> <p>話題提供 長谷川 桂子 (看護) 小杉クリニック本院  井上 幸久 (ワーカー) 岩倉病院  高木 友美 (看護) 三重県立高茶屋病院</p> <p>司会 宮園 美沙子 (看護) 三重県立高茶屋病院  岡村 茂司 (ワーカー) 新生会病院</p>
<p>5月14日(日)  AM.9:00~11:40</p>	<p>シンポジウム  「ネットワークを通して考える」</p> <p>シンポジスト</p> <p>マスメディアの立場から 安藤 明大 (中日新聞社)  企業の健康管理者の立場から 河南 文子 (富士電機 三重工場)  労働組合の立場から 浜中 正幸 (三重県職員労働組合)  法的立場から 森川 仁 (井上・森川法律事務所)</p> <p>指定発言 吉澄 琢二 (朝日新聞社)  松本 貞愛 (久居保健所)  宋 龍啓 (宋神経科クリニック)  笹野 鉄郎 (新神戸法律事務所)  猪野 亜朗 (三重県立高茶屋病院)</p> <p>司会 山口 節子 (伊勢保健所)  広兼 明 (広兼神経内科)</p>

(オ) 地域精神保健研修会

思春期・青年期の時期は人間の一生のなかでも身体的、心理的、社会的にもっとも変動の著しい時期にある。身体的には早熟傾向にある一方で高学歴化が進みこの時期が長期化している。

また思春期・青年期の時期には、さまざまな発達課題をのり越えていかねばならないが、現代社会では社会的要因と複雑に絡み合い難しくなっている。このような状況の中にある「この時期」の理解を深め、今後の対応について考える。

日 程	内 容
平成8年2月20日 13:30~15:30	演 題 「思春期・青年期の精神病理」 講 師 榎山女学園大学人間関係学部教授 成 田 善 弘 名古屋大学医学部講師 (精神医学)

(カ) 精神保健福祉専門講座 (精神保健福祉相談員継続研修会)

精神保健福祉相談員の資質向上を図ることにより、地域精神保健福祉活動の推進に寄与することを目的とする。

日 程	内 容		
	10:00~12:00	13:00~	14:30 ~ 16:00
平成7年 7月31日 (月)	心理トレーニング 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 教授 増 野 肇		
8月2日 (水)	心理トレーニング 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 教授 増 野 肇		
8月8日 (火)	「精神障害者の職業 リハビリテーション」 障害者職業センター 主任カウンセラー 野 口 勝 則	「精神疾患の理解」 こころの健康センター 主幹 (精神科医) 松 崎 ま み	「精神障害者の法的 制度の活用について」 高茶屋病院 P S W 山 崎 晴 彦
8月9日 (水)	「地域ケアをめぐる」 こころの健康センター 所長 原 田 雅 典	「S S Tの活用について」 高茶屋病院 臨床心理員 榎 原 規 之	「精神保健相談員とし ての保健婦の役割」 こころの健康センター 副参事 倉 田 つや子

(キ) 老人精神保健研修会

高齢者人口の増加に伴って、痴呆性老人の増加が予測されている。とりわけ、痴呆老人のケアは介護者の身体的、精神的負担は大きい。

一方、地域においては、家族の介護力が低下している現在、施設型サービスだけでなく在宅ケアサービスの充実強化が望まれている。

特有の精神症状や問題行動を起こす痴呆性老人とその家族のニーズにあった適切な支援ができるよう、地域における在宅ケアのあり方について考える。

日 程	内 容
平成7年6月29日(木)  18:00~20:45	<p>&lt;講演&gt;座長：原田 雅典 三重県こころの健康センター所長 「総合病院のお年寄りたち」 松阪中央病院 精神神経科部長 山崎 一正</p> <p>&lt;特別講演&gt;座長：野村 純一 三重大学医学部 精神神経科教授 『医療における「老人問題」について』 浴風会病院 精神科 竹中 星郎</p>

(ク) 社会復帰指導者研修会

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とした。

実施方法は3ヶ月を1クールとして年2回実施した。

各回の受講者は次のとおりである。

	第 一 回		第 二 回	
	平成7年9月～11月		平成7年12月～平成8年2月	
受 講 者	桑 名 鈴 鹿 伊 勢	加 藤 みゆき 稲 垣 香 松 岡 里 美	鈴 鹿 津 上 野	加 藤 孔 久 藤 田 典 子 西 村 美 哉



また、受講者に対するのプログラムは次のとおりである。

社会復帰指導者研修会プログラム

内容	開催回数	第一回	第二回
	開催月	平成7年 9月～11月	平成7年 12月～平成8年 2月
オリエンテーション		1 (単位)	1 (単位)
集団指導実習		15	10
生活技術指導実習		3	2
作業指導実習		4	4
専門講義		1	1
計		24 (単位)	18 (単位)

※1単位4時間とする。

(2) 学生の教育実習等

受講者名	実施回数	受講者数
三重大学精神神経科新入局員	1	10
三重県立看護短期大学1年生・専攻科地域看護学専攻生	18	1,094
三重大学医学部2年生・4年生	6	129
香川医科大学生	2	2
消防学校	1	148
東海北陸ブロック衛生教育研修会	1	50

計 29回 1,433名

### 3. 広 報 啓 発

- (1) パンフレット作成
- (2) センターだより「こころの健康」の発行
- (3) 所報「こころの健康センター所報」平成6年度版発行
- (4) 見学者の受け入れ指導
- (5) 講演会、講義、座談会等

一般県民に対する精神保健知識の普及啓発を目的とし、下記のとおり事業を実施した。

(1) パンフレット作成

今年度は精神保健パンフレットとして、「女性のメンタルヘルス」を作成、各関係機関に配布した。

・女性のメンタルヘルス

2,000部

(2) センターだより「こころの健康」の発行

今年度も、3回（No.26～28）発行し、関係諸機関へ配布した。各号の内容は、下記のとおりである。

発行年月日	内 容	執 筆 者
No.26 平成7年 6月15日	<p>特集：これからの精神科医療 大学での雑感 看護者としての立場から</p> <p>精神科ソーシャルワーカーの立場から</p> <p>発想の転換を軸にして 作業療法士の立場から 臨床心理士の立場から</p> <p>&lt;作業所紹介&gt; 太陽工作所誕生について 上房T&amp;Pのあしあと —移転しました— 私の心の健康法</p>	<p>三重大学医学部精神神経科教授 野村純一</p> <p>県立高茶屋病院 看護部長 山川守</p> <p>久居病院PSW 小栗誠</p> <p>鈴鹿厚生病院リハビリテーション科技師長 小牟禮真</p> <p>市立伊勢総合病院 鹿海令子</p> <p>ひまわり家族 松田美津子 岡田義孝</p> <p>精神保健ボランティア 三重てのひら 雪岡益代</p>
No.27 平成7年 10月30日	<p>特集：思春期のこころ 思春期のこころ</p> <p>人生をどう生きるか 親の子供 思春期 自分をもっと知りたい 今、何かを思う 思春期について 大人って… 足が地についていないことに対して</p>	<p>三重県小児心療センターあすなる学園長 清水將之</p> <p>県立久居高等学校3年 大谷修平 大西有紀 岸田知恵 坂本敦代 小玉知生 田中伸幸 吉田真希 清水加奈子</p>

発行年月日	内 容	執 筆 者
	自分がふっと思うこと	前 田 耕 司
	デイケア紹介 宝積クリニック、小規模デイケア “茶寮”	宝積クリニック心理職 市 野 由 美
	ミニひろば	津保健所 中 山 千代芳
	私の心の健康法	津保健所 種 村 和 春
No.28 平成8年 3月8日	特集：ボランティアは今 私とボランティア活動のかかわり 精神障害者の家族と共に  作業所を見学して思うこと  ボランティアグループ「ほほえみ」の活動 「ボランティア 千姫」の活動  精神健康ボランティアの現代  デイケア紹介 「熊野保健所もデイケアを始めました!!」  「はじめまして、／ ほっぷこ〜ん倶楽部です」 ペンリレー 私の心の健康法	三重てのひら会長 倉 田 慧 香 三重てのひら 式 井 武 三重てのひら 辻 村 知 身 ボランティアグループ「ほほえみ」 代表 岡 崎 幸 男 ボランティア千姫 会長 塩 谷 洋 子 三重県こころの健康センター 橋 本 晴 美  熊野保健所 保健指導課  久居保健所 保健指導課  員弁郡員弁町 種 村 幸 代

(3) 所報「こころの健康センター所報」平成6年度版発行 1000部

(4) 見学者の受け入れ指導

三重大学医学部学生等の見学実習の場として活用され、当センターの事業をとおして精神保健福祉活動についての理解を深めていただくためのよい機会となった。

平成7年度見学者

受 講 者 名	実 施 回 数	受 講 者 数
三重大学精神神経科新入局員	1	10
三重大学医学部専門課程2回生・4回生	6	129
香川医科大学生	2	2
三重県立看護短期大学地域看護学専攻生	1	35
計	10	176

(5) 講演会、講義、座談会等

精神保健に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。

今年度の講演等の実施回数は48回で、対象者は3,549名であった。講演等の内容は、ライフサイクルにおける心の健康、職場や地域における精神保健、精神障害者の社会復帰など多岐にわたっている。

また、派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増え、今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

平成7年度 他機関から依頼の講演会等

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派 遣 者
4. 19	テイクア検討会	講演「精神障害者を理解するために」 「テイクアとは？」	保健所長、医師、 保健婦等 13名	久居保健所	医師 ワーカー
4. 20	家族交流会	講演、演習「家族の心のリフレッシュ」	家族会会員等 8名	鈴鹿保健所	臨床心理士
4. 21	県自治研修所	講演「職業生活と心の健康」	新規採用職員 150名	県自治研修所	医師
5. 22	研修講座	講演「思春期の心性について」	小、中、高等学校教職 員 55名	県総合教育セン ター	臨床心理士
5. 23	地域精神保健連絡会	講演「精神保健法から精神保健福祉法 へ」	保健所、病院、市町村 精神保健福祉担当 30名	志摩保健所	医師
5. 29	精神保健ボランティアOB会研修会	講演、演習「精神障害者とのかか わり方」	ボランティアOB会員 家族会会員等 29名	桑名保健所	臨床心理士
6. 6	メンタルヘルス研修会	講演「職場のメンタルヘルス」	職員 55名	鳥羽海上保安庁	医師
6. 13	松阪地域精神保健連絡会	講義「センター事業の概要」	連絡会構成メンバー 25名	松阪保健所	臨床心理士
6. 26	親子教室	講習「子どもの気持ちと親の気持ち」	親子教室参加者、 保健婦 20名	桑名保健所	臨床心理士
6. 27	家族会勉強会	講演「家族が病を理解しよりよい援助 者になるために」	家族会員、保健所職員 19名	尾鷲保健所	医師
6. 28	地域実習	講義「センター事業の概要について」	看護短大地域看護学専 攻生 6名	久居保健所	保健婦
7. 1	母と女教師と語る会	講演「子どもの心と体の健康について」	雲林院小学校PTA母親、 女教師 30名	雲林院小学校 PTA	臨床心理士
7. 3	教養講座	講演「職場のメンタルヘルス」	職員 50名	津税務所	医師
7. 7	第35回東海地区施設職員研究協 議会	講演「心の時代の心の病」	施設職員 450名	日本精神薄弱愛 護協会東海地区 会	医師
7. 18	管内市町村衛生担当者会議	講演「保健所と市町村における精神保 健活動」	管内担当者 20名	伊勢保健所	医師
7. 20	施設体験実習	講義「センター事業の概要について」	三重大学医学生 9名	三重大学医学部	臨床心理士
9. 7	こころの健康を考える市民講座	講演「精神保健とは」	上野市民 70名	上野市社会福祉 協議会	医師
9. 18	精神保健福祉講座	講演「心に障害のある方と係わって」	市民、四日市市保健課 職員、石巻短大実習学 生 30名	四日市保健所	医師

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派 遣 者
H7 9. 21	こころの健康を考える市民講座	講演「精神障害と神経症」	上野市民 70名	上野市社会福祉協議会	医師
9. 25	親子教室	演習「はみだしっ子でもいいんです 育児書どおりにいかないのが子どもです」	親子教室参加者 保健婦等 33名	桑名保健所	臨床心理士
9. 26	精神保健研修会	講演「精神疾患の理解と障害者への支援について」	管内民生委員、市町村担当職員、社協職員等 60名	尾鷲保健所	医師
10. 6	福祉ボランティア入門講座	講演「精神保健ボランティアについて」	受講者 社協職員等 16名	津市社会福祉協議会	保健婦
10. 17	健康講座	講演「職場のメンタルヘルス」	部長以上管理者 150名	昭和四日市石油	医師
10. 26	保健婦研修会	講演「職場のメンタルヘルス」	保健婦 25名	三重県社会保険協会	医師
10. 27	思春期講習会	講演「思春期の心の悩みについて」	保健婦等 7名	松阪保健所	臨床心理士
11. 1	精神保健ボランティア講座	講演「ライフサイクルと心の健康」	受講生、看護学生等 26名	桑名市社会福祉協議会、桑名保健所	保健婦
11. 21	桑名市適応指導教室「親との会」	講演「不登校の子どもへのかかわり方」	親との会メンバー、担当者教諭 11名	桑名市教育研究所	臨床心理士
11. 30	三重県学校保健安全研究大会	パネルディスカッション 「こころの健康指導のあり方について」	幼稚園、小・中・高等学校等教職員及び学校保健安全担当者 400名	三重県教育委員会、三重県学校保健会等	臨床心理士
12. 15	家族交流会	講演、演習「家族の心のリフレッシュ」	家族会会員等 10名	鈴鹿保健所	臨床心理士
H8 1. 11	鈴鹿市学校保健会研修祝祭	講義「センター事業の概要について」	中学校教諭・養護教諭 11名	鈴鹿市学校保健会	保健婦
1. 16	健康管理講座	講演「職場のメンタルヘルス」	管内学校教頭 80名	三重県教育委員会体育保健課	医師
1. 18	心身リフレッシュ教室	講演「ストレス予防のキーワード」	県職員 13名	久保保健所	医師
1. 22	津安曇地区行政連絡協議会	講演「メンタルヘルスあれこれ」	管内市町村長・県民局長他 10名	津県民局	医師
1. 23	桑名市適応指導教室「親との会」	講演「不登校の子どもの自立に向けて」	親との会メンバー担当教諭 11名	桑名市教育研究所	臨床心理士
1. 23	管内市町村民生委員研修会	講演「精神障害者が生活しやすい地域づくりについて」	管内民生委員 100名	伊勢保健所	医師
1. 29	親子教室	演習「子どもの気持ちと親の気持ち」	親子教室参加者、保健婦 23名	桑名保健所	臨床心理士
1. 29	健康管理講座	講演「職場のメンタルヘルス」	管内学校教頭 80名	三重県教育委員会体育保健課	医師
2. 6	三重県心配ごと相談員研修会	講演「こころの病気と支援のあり方」	市町村心配ごと相談所相談員他 180名	三重県社会福祉協議会	ワーカー
2. 7	県立看護短期大学生施設見学	講義「センター事業の概要」 「今日の地域精神保健活動」	地域看護学専攻生 29名 引率教官 1名	県立看護短期大学	医師 保健婦
2. 8	市民健康講座	講演「こころの健康について」	市民・医師会員 30名	久居一志地区医師会	医師
2. 14	ヘルシー料理教室	講演「心身の健康を考える」	地区住民 40名	塩浜地区市民センター	医師
2. 16	磯部町学校保健会研修祝祭	講演「センター事業の概要について」 「思春期について」 「学校における対応・指導について」	幼・小・中学校教諭、養護教諭 8名	磯部町学校保健会	臨床心理士

月 日	名 称	内 容	対 象 者	主 催	派 遣 者
H 8 2、21	松阪地域家族会例会(まつの会) 管内保健婦・看護婦研修会	講演「これからの精神障害者福祉」	家族・当事者・ボラン ティア・市議他 28名	松阪地域家族会 (まつの会)	医師
2、28	精神保健ボランティアスクール	講義「面接技術についてー健康相談・ 健康教育における面接のコツー」	市町村保健婦・看護婦 他 11名	松阪保健所	臨床心理士
3、1	三重大学医学生施設見学	講演・演習「よりよい出会いのために」	受講者 48名	三重県社会福祉協 議会・鈴鹿市社会 福祉協議会	臨床心理士
3、4	三重大学医学生施設見学	講演「センター事業の概要について」	三重大学医学部学生 引率教官 35名	三重大学医学部 衛生学公衆衛生 学教室	医師
3、5	三重大学医学生施設見学	講演「センター事業の概要について」	三重大学医学部学生 引率教官 36名	三重大学医学部 衛生学公衆衛生 学教室	臨床心理士
3、6		講演「センター事業の概要について」	三重大学医学部学生 引率教官 36名	三重大学医学部 衛生学公衆衛生 学教室	保健婦

計48回 3,549名



## 4. 調 査 研 究





(4) 家事手伝い

(5) その他( )

4. 悩み事や困ったことがある時には誰に相談しますか。

- ・家 族
- ・友 達
- ・病院関係者（主治医・ワーカー等）
- ・保健所の職員（保健婦等）
- ・作業所の職員
- ・ボランティア
- ・その他
- ・相談しない

5. 余暇の過ごし方について

- ・家で過ごすことが多い
- ・友達と出かける（ボーリング、カラオケ等）
- ・ひとりで買い物などに出かける
- ・図書館や文化センターなどで過ごす
- ・その他( )

6. 「精神障害者保健福祉手帳」の制度について知っていますか。

a よく知っている

- ↓
- どこで知りましたか
- ・ 雑誌や新聞など
  - ・ 保健所の職員
  - ・ 家 族
  - ・ 作業所の職員
  - ・ 友 達
  - ・ その他( )
  - ・ 病院関係者（主治医）

b あまり知らない（・もっと詳しいことを知りたい ・とくに知りたいとは思わない）

c 全然知らない（・詳しいことを知りたい ・とくに知りたいとは思わない）

7. 今後、どのような援助を望まれますか。自由に書いてください。

### Ⅲ 調査結果

〈当事者交流会アンケート集計〉

#### 1. 性別および年齢

性別	年代別				
	小計	20才代	30才代	40才代	50才以上
男性	14	2	5	5	2
女性	7	2	1	1	3
合計	21	4	6	6	5

#### 2. 当事者交流会について

##### (1) 参加動機（複数回答）

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
ちらしを見て、自らすすんで	5		2	3	
作業所や家族会からのすすめ	14	4	4	3	3
保健所からのすすめ	1		1		
DCや作業所の仲間からの誘い	—				
その他	—				
無回答	1				1

##### (2) 参加して感じたこと（複数回答）

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
仲間と話げできた	6	1	2	2	1
他の作業所やDCの様子がわかった	6	1	1	3	1
ビデオをみて全精進等のことがわかった	5	1	2	1	1
仲間のグループができるとよい	6		3	1	2
グループができたら入会したい	2		1	1	
参加者ともっと話がしたかった	5	1	1	2	1
参加したがあまりよくなかった	—				

〈参加して感じたこと（自由記載）〉

- ・当事者自身で詩を書き、その集まりで病気の話や悩み事など話し合っている。自分たちで自費出版の夢を掲げ一団となり愉しく歩んでいます。詩の世界だけでなく当事者同士の病への支えになっています。
- ・「くるみの会」と言う会をつくっています。(20才代男性)
- ・いい事だと思います。ありがとうございました。(30才代男性、50才以上女性)

- 先生は話がよくわかるようにしている。先生の頭はかなりよさそう。(30才代男性)
- この会に参加して全国の仲間のことやら、一人であってはいけない、仲間をつくることの大切さがよくわかりました。(30才代男性)
- いろいろな当事者に会ったり見たりできてよかった。(30才代男性)
- 岩田先生の話聞いて、自分から話すことによって自分自身が癒されるとのことだったが、私自身も消極的な性格なので、もっと積極的に自分の体験を話すべきだと感じた。(30才代男性)
- 当事者のグループがあることが参加して始めてわかった。北海道のすみれ会を三重県でも作りたかった。今は作業所に行っていますが、当事者の為の会を県内に広めたい。(40才代男性)
- 「ひとりぼっちをなくそう！」のビデオを見て、私自身今一人で生活をして、仲間を作ってきました。(40才代男性)
- こちらの世界に長居するより、早くあちらの世界にもどった方がいいような気がする。グループができると生活習慣や価値観が固定化する可能性がある。私はとてもひどいことを考えていると思いますが本音です。(40才代男性)
- 援護寮に3人で生活しているが、上手に暮らすことはなかなか難しいことだと思うので、他のグループがどうやっているかを知りたい。(50才以上男性)
- 「ひとりぼっちをなくそう！」のビデオはかねがね観たいと思っていたので感動しました。(60才以上男性)
- もっと感情的なことについて深く話し合いがしたかった。Pt同志が深くつながりあえたと感じることができなくて残念だった。

〈講演の感想〉

先生のお話は教科書の道徳の本みたいな内容だなあと本心は思いました。人間ってもっと複雑なものだと思いました。そして、わかりあうことは難しくセルフヘルプも難しいと思いました。(20才代女性)

- 仲間はどうなときにも作れると思った。みんなが平等でいつまでもその時が続けば良いなあ…と願っています。(20才代女性)
- 皆が望んでいることをもっと知りたかった。(50才代女性)

(3) 今後の当事者交流会について

- 今後の参加希望

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
参加したい	16	3	5	5	3
参加したくない	—				
どちらともいえない	2	1	1		
無回答	3			1	2

・希望する開催回数

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
1年に3～4回	7	2	1	3	1
1年に1～2回	8	1	4	2	1
1年に1回	1				1
無回答	5	1	1	1	2

・希望するプログラム（複数回答）

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
講演会や学習会	6	1	1	2	2
レクリエーション（卓球、カラオケ等）	5	2	1	1	1
社会復帰施設の見学	6	1	2	3	
作業所やDCについての情報交換	9		3	4	2
仲間との自由な話し合い	7	3	1	2	1
家族会やボランティアとの話し合い	5	1	2	2	1
ハイキングなどの野外活動	5	1	3	1	
無回答	1				1

〈その他の希望〉

- ・なんらかのテーマにそったPt同志の話し合いをしてみたい。（20才代女性）

3. 日常生活の状況について

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
作業所通所のみ	5	1	3	1	
D C のみ	1				1
作業所とDC	6	2	1	2	1
就職と作業所	1	1			
就職とDC	1			1	
就職とDCと作業所	1			1	
DCと家事手伝い	2		1	1	
家事手伝いのみ	1		1		
その他	1				1（失業中）
無回答	2				2



・作業所へ通所状況

		計	20才代	30才代	40才代	50才以上
作業所へ通所		13	4	5	3	1
D C へ 通所 (11)	保健所	9	1	2	4	2
	病院	5	1	2	1	1
就職し ている (3)	常勤	1			1	
	パート	1			1	
	アルバイト	1	1			
家事手伝い		1			1	
その他		1				1 (失業中)
無回答		2				2

4. 悩み事や困ったときの相談先 (複数回答)

		計	20才代	30才代	40才代	50才以上
家族		8	4	4		
友達		8	2	2	2	2
病院関係者		9	1	4	2	2
保健所の職員		4		3	1	
作業所の職員		2		1	1	
ボランティア		4	3		1	
その他		2	1 (旧相)			1
相談しない		2			2	
無回答		1				21

5. 余暇の過ごし方 (複数回答)

		計	20才代	30才代	40才代	50才以上
家で過ごすことが多い		6	1	3	1	1
友達と出かける		8	2	3	2	1
一人で買い物等にでかける		8		5	2	1
図書館で過ごす		2			2	
その他		5	1	2	2	
無回答		2				2

〈その他〉

- ・家族と出かける
- ・作業所やD Cで過ごす
- ・ビデオのダビング
- ・ドライブ

利用施設別（複数回答）

	計	作業所	デイケア	作業所と デイケア	利用なし	無回答
家で過ごすことが多い	6	3			2	1
友達と出かける	8	2	2	3	1	
一人で出かける	8	3	2	1	2	
図書館で過ごす	2		1	1		
その他	5	2	1	2		

6. 「精神障害者保健福祉手帳」の制度について

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上	
a. よく知っている	12	3	3	3	3	
情報源 (複数回答)	雑誌や新聞	3		2		1
	家族	—				
	友達	2	1			1
	病院関係者	1		1		
	保健所の職員	3	1	1	1	
	作業所の職員	5	1	2	1	1
	その他	3	1		1	1

〈その他〉

- ・市役所
- ・厚生省のヒアリングに参加

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
b. あまり知らない	5	1	1	3	
もっと知りたい	4	1	1	2	
知りたくない	1			1	
c. 全然知らない	3		2		1
知りたい	1				1
知りたくない	1		1		
無回答	1		1		
無回答	1				1

## 利用施設別

	計	作業所	デイケア	作業所と デイケア	利用なし	無回答
よく知っている	12	5	2	4	1	
あまり知らない	5	1	2	2		
全然知らない		3	1	1	1	

### 7. 今後、希望する援助について（自由記載）

- ・ビデオにでてきた他の都道府県のように、久居の体育館でのフェスティバル以上にもっともっとみなさんと交流したい。(20才代男性)
- ・社会の人と、どの様に付き合っていけばいいでしょうか。(30才代男性・50才代男性)
- ・当事者が自立していけるような援助(30才代男性)
- ・T&Tの作業所から当事者の会を作りたいと思います。(40才代男性)
- ・お金がすくなくすぎます。よろしく。(40才代男性)
- ・生活支援センターができて、生活全般について相談できる所があれば良いと思います。(50才代男性)
- ・心のバランスが崩れそうになった時に、少しでいいから人間らしい思いやりにふれたいと思います。(20才代女性)

## IV まとめと考察

### 1. 参加者の性別および年齢

男性14名、女性7名であり、30・40才代が各6名、50才以上5名、20才代4名であった。

### 2. 当事者交流会について

#### (1) 参加動機

参加者21名中14名が「作業所や家族会からすすめられて」参加している。

#### (2) 参加した感想

- ・「仲間との話しができた」「他の作業所やDCの様子がわかった」「仲間のグループができるとよい」という感想が一番多く、次いで「もっと話したかった」「全精連のことがわかった」となっている。

<自由記載のなかから>

- ・一人ではいけないこと、仲間同士の語り合う仲間づくりが大切であること、県内でもグループができるといいという感想のほか、当事者同志が仲間づくりを始めている様子も紹介されており、当事者間の交流が望まれている感想が多く出された。
- ・講演を聞いた感想について、積極的に自分の体験を話すことが大切であるという意見の他、わかりあうことは難しくセルフヘルプも難しいという感想もあった。

### (3) 今後の交流会について

- ・今後交流会があれば、「参加したい」と答えたものは21名中16名であった。「参加したくない」と回答したものはなかった。
- ・希望する参加回数は、1年に1～2回が8名、1年に3～4回が7名であった。
- ・プログラムへの希望は、「作業所やDCの情報交換」が一番多く、次いで「自由な話し合い」「講演会や学習会・施設見学」「レクリエーション・家族会等との話し合い」の順であった。

## 3. 日常生活状況

- ・作業所通所者21名中、13名、ディケア通所者は21名中11名（保健所9名・病院5名重複あり）であり、就職しているものへは3名いるが、各々作業所、ディケアも通所している。家事手伝いをしながらディケア通所しているもの2名、援護寮入所者1名あわせると社会復帰施設利用者は、18名となり、全体の85.7%である。
- ・作業所通所者は、1週間に2回～6回通所している。4回が最も多く7名平均して3.7回である。

## 4. 悩み事や困ったときの相談者

- ・病院関係者（9名）家族や友達（各8名）と答えたものが多く、次いで保健所の職員やボランティア（各4名）となっている。また、「相談しない」と答えたものが2名あった。
- ・年齢との関係を見ると、20代、30代では家族が多く、40代、50代になると、家族はなくなり友達や病院関係者、保健所の職員が多くなっている。

## 5. 余暇の過ごし方

- ・友達と出かける、一人で買い物（各8名）、家で過ごす事が多い（6名）と答えたものが多かった。
- ・利用施設との関係を見ると、「友達と出かける」8名中、作業所通所ディケア通所各5名ずつで、どちらも利用していないものは1名だった。「一人で買い物」は、同様に作業所4名、ディケア3名、利用なし2名、「家で過ごすことが多い」は、作業所3名、利用なし2名であった。

## 6. 「精神障害者保健福祉手帳」制度について

- ・「よく知っている」と答えたものは、半数以上の12名であった。
- ・「あまり知らない・全然知らない」と答えた8名中5名は、「もっと知りたい」と答えているが、「知りたくない」と答えるものも2名あった。
- ・「知っている」と答えたものの情報源は、作業所や保健所の職員が8名と多かった。また、厚生省のヒアリングに参加したものが1名あった。
- ・利用施設との関係を見ると、「よく知っている」と答えたものは、作業所やディケア通所者は11名で、どちらも利用していないものは1名（厚生省のヒアリングに参加）、「あまり知らない」と答えた5名は、全員、作業所やディケアに通所している。「全然知らない」と答えたものは、ディケア通所者1名、利用なし、回答なしが各1名となっている。

## 7. 今後、希望する援助は、下の3点にまとめられる。

- ・こころの健康フェスティバルや当事者会等交流の場がほしい。

- ・自立への援助、生活支援センターの設置等生活全般についての相談場所がほしい。
- ・社会の人々との付き合い方についての指導。

#### 8. アンケート結果のまとめにより、以下のことが考えられる。

- (1) 年齢が若いほど家族に相談する傾向がみられ、40代、50代になると家族より、友達や病院や保健所などの職員に相談している。
- (2) 作業所やデイケア通所の方が余暇に、友達と出かけたり、外出したりして過ごす傾向がある。
- (3) 福祉関係の新しい情報は作業所やデイケア利用者の方が入りやすく、情報源は、作業所や保健所の職員であることが多い。
- (4) 交流会参加者は、年に数回の交流の場を望んでいる。また、仲間とおし話し合いの場を望んでいる者も多くみられた。

#### 9. 最後に

今回の調査は、対象数も少なく、調査内容も限定せざるを得ず、生活実態の一端を垣間見たに過ぎない。今後、調査の対象、内容を充実し、三重県の子精神障害者の生活実態、ニーズを把握していくことが課題である。

## 5. 協力組織の育成

- (1) 関係団体への協力援助
- (2) 地域家族会リーダー研修会
- (3) 精神保健ボランティア教室

## (1) 関係団体への協力援助

### (ア) 三重県精神障害者家族連合会（三家連）

三家連が発足以来25年が過ぎようとしている。会員の高齢化や会員の確保などの問題を抱えながらも、地域においては、保健・医療・福祉等関係機関の連携強化にくわえて、精神保健ボランティアグループの支援を得て、精神障害者の社会復帰など様々な活動への取組がなされている。

家族会の育成とともに、こうした関係領域拡大と連携の強化を目指して指導援助を行った。

三家連の運営に関する助言指導はもとより、例年開催される三家連精神保健大会の企画、運営や三家連誌「あゆみ」の編集のほか、毎年三家連役員とセンター所長の懇談会などを行っている。

### (イ) 精神障害者地域家族会

県内の地域家族会は、現在、病院家族会4か所、地域家族会が7か所が活動している。

地域家族会への援助は、主に保健所において開催されている各家族会の定例総会への参加や、会独自で計画された研修への講師の派遣のほか、平成4年度から平成6年度にかけて、7か所の共同作業所が開設され、地域の受け皿づくりへの積極的な取組が行われていくなか、情報提供や各関係機関との連絡調整等、年々援助の要請が増えている。

### (ウ) アルコール関連組織（断酒会等）

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動を行っている。

県内には、6ブロック13支部で各々例会がもたれるなど、地域に根ざした活動が行われている。また、病院内においても断酒会が結成され活動している。

地域においては、従来から「アルコール問題予防のためのネットワーク会議」が開催され、センターも世話人の一人として参画している。

平成7年度の協力援助状況は次の通りである。

内 容	実施回数
アルコールネットワーク会議及び連続講座	3回
三重断酒新生会	2回

(2) 地域家族会リーダー研修会

保健所を拠点とした地域家族会活動の推進を図るため、平成2年度から標記の研修を開催している。

現在7ヶ所の保健所に地域家族会が結成されており、その活動は年々活発になってきている。

なかでも、共同作業所等社会復帰の受け皿づくりについては、関係諸機関や団体との連携協力の下、県下各地での取り組みが盛んになってきている。

これらの活動をさらに推進するため、関係者の研修および相互の交流を図り、精神障害者の社会復帰体制の整備を促進することを目標とし、「就労援助」を研修課題とし開催した。

研修内容は、次のとおりである。

	研 修 内 容	参加者数および対象者
第1回 平成7年 10月4日	「SST（生活技能訓練）を学ぶ」  県立高茶屋病院 診療部心理室	19名 共同作業所長および指導員、 家族会会員、ボランティア 等関係者
第2回 平成7年 10月17日	榎原規之	20名 対象者 同上
第3回 平成8年 3月12日	施設見学 ・三重障害者職業センター ・みえワークトレーニング社  講義「スムーズな就職のために」  三重障害者職業センター 障害者職業カウンセラー 宮崎 潔	21名 対象者 同上



### (3) 精神保健ボランティア教室

地域で生活する精神障害者への理解を深め、それを支援することを主な目的として、平成元年より精神保健ボランティア教室を開催している。

平成7年度も、これらの活動の充実、拡大を図るため下記実施要領に基づき教室を開催した。

#### 精神保健ボランティア教室実施要領

##### 1. 目 的

精神障害者の治療や、社会復帰に対する考えは、従来入院治療中心から、地域精神医療へと次第に視点を移してきている。

このような状況のもとでは、社会資源をいかに有効に活用するかが精神障害者の社会復帰を促進していくうえで重要な要素となる。特に人的資源について考えるなら、従来は医師、看護婦、ソーシャルワーカー、保健婦などの専門的な人々によって支えられてきたが、地域に根ざした生活の場（共同作業所や回復者クラブ、共同住居など）が、志向されている現在の状況のもとでは、専門家集団による力だけでは、その目的を達しえない。むしろ、より広く、人的資源を求めていくことで、これを支え押し進めていくことができるものと期待されている。

そこで、このような人材を精神保健ボランティアとして、育成していくことを目的として、ボランティア教室を催すものとする。

##### 2. 主 催

三重県こころの健康センター

##### 3. 日 時

平成7年8月3日（木）～11月16日（木）

毎月第1、3木曜日（13：30～15：30）

##### 4. 会 場

三重県こころの健康センター

##### 5. 対 象

精神保健やボランティア活動に興味があり、受講後ボランティアとして活動する意志のある方および受講を通して自己の心の健康づくりを図ろうとする方。

##### 6. 内 容

別表プログラムのとおり。

##### 7. 費 用

受講料は無料とする。

##### 8. 募集方法

一般公募

9. 申し込み方法及び期日

申し込み用紙により申し込む。締切り 7月20日(木)但し定員に達し次第締め切る。

精神保健ボランティア教室実施状況

平成元年度より開催しているボランティア教室は、年々受講希望者が増加している。

今年度も従来通り、県下各市町村広報等の掲載を依頼し公募したところ、多数の受講希望があった。その為、定員を上回って受け付け教室を開催した。

(別表)

1. 内容(プログラム)及び受講者数

回	内 容 (13:30~15:30)		受講者数
第1回	8月3日(木)	(13:30~14:10) 開講式 オリエンテーション 講義「三重県における精神保健について」 三重県健康福祉部健康対策課 精神保健係長 丹羽 正男	47名
第2回	8月17日(木)	心理トレーニング「よりよいためのために」 三重県こころの健康センター主査(臨床心理士) 久保早百合	44名
第3回	9月7日(木)	講義「地域における精神保健活動について」 三重県こころの健康センター副参事(保健婦) 倉川つや子 講義「ボランティア活動とは？」 三重県社会福祉協議会 ボランティアセンター 蒔田 勝義	44名
第4回	9月21日(水)	講義「ライフサイクルと心の健康」思春期・青年期 小児心療センターいあすなる学園 医長 西田 寿美	46名
第5回	10月5日(木)	講義「ライフサイクルと心の健康」中年期・老年期 三重県こころの健康センター所長 原川 雅典	43名
第6回	10月19日(木)	講義「精神疾患のあらまし」 三重県こころの健康センター主幹(精神科医) 松崎 まみ	48名
第7回	11月2日(水)	施設見学 「工房T&T」等 (施設見学の場所によっては、日程が変わることがあります。)	40名
第8回	11月16日(木)	まとめ 「三重でのひら」の会員と共に	49名

## 2. 受講者の状況

年度別、各保健所管内別受講者数（平成4年度～平成7年度）

年度	総数(人)	桑名	四口市	鈴鹿	津	上野	久居	松阪	伊勢	志摩	尾鷲
H7	53	0	3	6	14	3	12	6	5	3	1
H6	52	4	3	13	5	2	7	12	4	2	0
H5	44	1	14	1	5	8	6	5	4	0	0
H4	37	0	3	8	5	4	12	2	2	1	0

平成7年度 受講者の年代別、職業別状況

年代	区分 人数	有 職 者					な し	ボランティアの経験		
		会社員	団体職員	医療関係	パート	農業		その他	有	無
20	2		1	1				1	1	
30	7	1		2	1		3	4	3	
40	16	3	1	1	2		1	8	9	7
50	18	1				2	1	14	6	12
60	5	1						4	4	1
70以上	5			1				4	2	3
計	53	6	2	5	3	2	2	33	26	27

- ・受講者の年齢層は、40代と50代で6割を占める。
- ・ボランティア経験については半数は何らかのボランティアの経験のある人である。

## 3. まとめ

今年度も、市町村、社会福祉協議会などの広報を通じて、一般公募したところ、精神保健ボランティア教室について問い合わせが沢山あり、地域の人々の精神保健やボランティアに関する関心が年々高まってきていることが窺われた。

問い合わせのあった人、先着59人に教室の案内通知をしたところ53人の方から参加申し込みがあり定員をはるかに上回って教室を開催した。

途中で4人の人が都合が悪くなったり、自分の思っていた事と違う等の理由により受講されなくなった為、教室終了者は49名であった。

プログラムには講義の他に、精神障害者への理解をいっそう深め、ボランティアの必要性を理解してもらうことを目的に、精神障害者共同（小規模）作業所や、保健所デイケアの見学実習を計画している。

今年度は、受講者のプロフィールを参考に、教室終了後、ボランティア活動に出来るだけつながりやすいと思われる所を実習場所として選定した。精神障害者共同（小規模）作業所見学は、「太陽工作所・わかば共同作業所・すずわの家・工房T&T・いすず工房・松阪工作所・ふるさと工房」で、

保健所デイケアの見学実習は「鈴鹿・津・松阪・伊勢・志摩」に依頼し実施した。また今回は津、久居地区の受講者が多かったこともあり、当センターのデイケア見学実習も行った。

見学実習の感想として、

- ① ボランティアとして基本的に大切なことを学んだ。
- ② 社会復帰を目指して頑張っている人達を見て、自分の幸福を感じると共に少しでも社会復帰の為の手助けが出来たらと思った。
- ③ 障害者や家族を支える人が増えていくことが大切だと思った。
- ④ いろんな人達の協力によって、ボランティア活動が行われていること、誰でも協力出来ること、自分が何か出来なければ活動に参加出来ないのかと不安に思っていたことが解消された。
- ⑤ 何かを見つけてボランティア活動をしたい。
- ⑥ ボランティア活動は楽しく、面白くないと続かないことを教えてもらった。
- ⑦ デイケア参加者の実態に触れることが出来て良かった。保健所のデイケアが彼らの精神的よりどころになっていると感じた。大切な場所である。
- ⑧ 参加するまで不安だった。思っていたより皆明るくて楽しそうだった。皆素直だと感じた。
- ⑨ 「ボランティア活動をしている人達に感動した。高齢の方が活動しているところを見て、自分も老いていく姿を想像し人の為だけではなく、自分が人によって支えられていくこのボランティア活動を素晴らしく思った。」

「今まで学習した受容的、共感的なかわり、傾聴することを改めて学習した。」

等があがっており見学実習は効果的であったと考える。

また、最終日は、すでに活動している「三重でのひら」の会員との交流会を計画し先輩ボランティアの方達から「私のボランティア活動」というテーマで、色々な活動を紹介してもらった。その結果、この交流会がとても良かったという声が多く、ボランティア活動のイメージがもっと広がりたい意欲の向上になったようである。

(今後の課題)

ボランティア教室を受講される人の中には、ボランティア活動への関心より精神保健についての勉強がしたいという人も多く、教室終了後は一時的にボランティアの会に入会するが、その後継続した活動に結びつく人は少ない。当センターは県内全域を管轄するため、受講者も各地から集まってきたこともあり、ボランティア教室受講後のフォローが困難である。

その為には、実際のボランティア活動の場となる、共同作業所や保健所のデイケアでの見学実習の時にいかに、ボランティアとしての人材をキャッチしてもらうかが重要になってくると思われる。

また、ボランティア教室の目的を達成するためには、受講申し込みを受け付ける時に、受講後ボランティア活動をしてもらうことを条件づけることや、受講者を多くとりすぎないこと等の検討が必要である。

#### 4. 精神保健ボランティア教室修了者の活動状況

当センターの精神保健ボランティア教室修了者の中から「至心会」という精神保健ボランティア

グループが平成2年1月に結成され、平成4年10月には「三重でのひら」と改称しボランティア活動を続けている。

当初は、こころの健康センター事業への協力、地域家族会への支援が中心の活動であったが、平成5年度は、精神障害者共同（小規模）作業所「工房T&T」開所に向けての資金作り、家屋の提供など積極的なボランティア活動を展開し開所に至らせた。またそのほか平成7年1月発生した阪神大震災では、救援物資を集めて送る等のボランティア活動も熱心に行われた。このような活動の功績が認められ平成7年12月5日の第28回精神保健三重県大会において三重県精神保健協議会会長表彰を受けた。

現在、会員は男女合わせて95名で桑名から志摩までの広い地域にわたっており、主に地域の共同作業や保健所のデイケア等で活動をしている。

（具体的な活動内容）

- ① 精神障害者の家族会活動への協力。
- ② 共同作業所への支援。
- ③ こころの健康センターや保健所の実施している社会復帰事業への協力。
- ④ 精神保健福祉に関する各種研修会への参加及び協力。
- ⑤ 総会、役員会、例会の開催
- ⑥ 会報「三重でのひら」の発行
- ⑦ 広報、啓発活動
- ⑧ ボランティア資金獲得活動（バザー）
- ⑨ 他のボランティアグループとの交流

## 6. 心の健康づくり推進

- (1) こころの健康づくり教室
- (2) こころの健康づくり推進連絡会議
- (3) 思 春 期 講 座

近年の社会生活環境の複雑化に伴い、これらのに適応するためのストレスが増大、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増大している。

こころの健康センターでは、これら精神疾患に関する窓口の設置、精神保健に関する知識の普及等を行うことにより、精神保健の保持を図る目的で次の三事業を実施した。

#### (1) こころの健康づくり教室

今年度のこころの健康づくり教室は、回復途上にある精神障害者の社会参加に向けての交流の場として、昨年に引き続き「こころの健康づくりフェスティバル」を開催した。

### 「こころの健康づくりフェスティバル」実施要領

#### 1. 日 的

県内の社会復帰施設、共同作業所のメンバー、保健所、病院、こころの健康センターデイケア等地域社会の中で生活し社会復帰を目指す人々が一同に集まり、家族、ボランティア、各関係機関の参加のもとスポーツ、レクリエーションなどを通して交流、互いの理解を深め、精神障害者の社会復帰を図る。

#### 2. 開催日時

平成7年9月30日(土) 午前10:30～午後3:00

#### 3. 場 所

久居市総合体育館 久居市野村町877-1 ☎(0592)55-6081

#### 4. 主 催

こころの健康づくりフェスティバル実行委員会

デイケア実施保健所(桑名、四日市、鈴鹿、津、久居、松阪、伊勢、志摩、上野、尾鷲、熊野)

デイケア実施病院(国立療養所 榊原病院、県立高茶屋病院、四日市日永病院、松阪厚生病院、鈴鹿厚生病院)

共同作業所(わかば共同作業所、すずわの家、松阪工作所、ふるさと工房、みのり工房、いすず工房、工房T&T、太陽工作所、オレゴン、桑友)

社会復帰施設「四季の里」

三重県精神障害者家族連合会、地域家族会

三重でのひら「精神保健ボランティア」

こころの健康センター

#### 5. フェスティバル実行委員会の設置

フェスティバルの成果をより高めるために上記関係機関から実行委員を選出願い、実行委員会を開催しフェスティバルの具体的な内容、準備等について検討を行う。

#### 6. プログラム

① 誰もが参加しやすいレクリエーション、スポーツ(運動会競技)を中心とした内容で別途さだめ

る。

- ② 各施設、デイケア等の作品の展示を行う。

## 7. 広 報

- ① フェスティバルのポスターを作成、各関係機関に配布、案内するとともに参加を呼びかける。  
② その他新聞等により広報活動を行う。

### こころの健康づくりフェスティバルプログラム

期 日 平成7年9月30日(土)

場 所 久居市総合体育館 久居市野村町877-1 ☎ 0592-55-6081

日 程 10:00 受付

:25 集合(グループ別に集合、プラカードを先頭に入場行進)

:30 開会式

開会宣言、実行委員長挨拶、来賓挨拶、競技の説明・注意事項、選手宣誓、  
リズム体操

11:00 <<午前の部>>

① ジャンケンゲーム

全員参加

② 風船ゲーム

団体競技

③ ウルトラクイズ

全員参加

12:00 昼食・休憩

1:00 <<午後の部>>

④ カード合わせ

全員参加

⑤ パン食い競争

個人競技

⑥ 玉入れ

団体競技

⑦ フォークダンス

全員参加

2:45 閉会式

講評、閉会宣言

3:00 終了

\*作品の展示は会議室を使用



障害者の交流の場としてすでに5回のこころの健康づくりフェスティバルを開催しました。年々参加者も増え当日は350名余の参加でした。精神障害者が地域社会の中で生活し、社会復帰につながる一助であったように思います。また、回を重ねるにつれ年1回のフェスティバルを心待ちにしてくれている人、団体間の交流の場にもなっているようです。



社会参加にむけての交流の場

地域

# こころの健康づくり フェスティバル

いろいろなこと考えないで、  
とにかく行ってみようヨ！  
そして、  
たくさん笑顔に出会おうヨ！

### ●プログラム

- 10:00～ 受付
- 10:30～ 開会式
- 11:00～ ゲーム・競技施設  
(ジャンケンゲーム・軍艦ゲーム・ウルトラクイズ)
- 12:00～ 昼食・休憩
- 13:00～ ゲーム・競技施設  
(カード合わせゲーム・パン食い競争・玉入れ競争・フォークダンス)
- 14:45～ 閉会式

### ●主催

- こころの健康づくりフェスティバル実行委員会
- ◆デイケア美穂保健所  
(桑名・四日市・鈴鹿・津・久居・伊勢・伊勢・志摩・土鈴・瑞穂・龍野)
- ◆デイケア美穂病院  
(国立療養所 神原病院・国立富山療養院・四日市日永病院・松阪厚生病院・鈴鹿厚生病院)
- ◆共同作業所  
(わかば共同作業所・すずむの森・越後工作所・ふるさと工房・のり工房・のり工房・工務所・木工所・オレゴン・藤友)
- ◆社会復帰施設「四季の里」
- ◆三重県福祉障害者鉄道協会・地域家協会
- ◆三重てのびら「精神保健ボランティア」
- ◆こころの健康センター

## H79/306

AM10:30~PM3:00

### 久居市総合体育館

久居市野村町877-1 TEL0592-55-5081

■久居駅より徒歩15分 ■駐車場300台あり ■各施設、デイケア等の入場料もありません。



●お問い合わせ先●

三重県こころの健康センター  
三重県久居市野村町2501-1 TEL0592-55-2151

こころの健康づくりフェスティバル ポスター

## (2) こころの健康づくり推進連絡会議

平成5年12月に心身障害者対策基本法が改正され、障害者基本法となり精神障害者もその対象となりました。この改正で障害者の自立と社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動への参加の促進を規定し、障害者の「完全参加」と「平等」を目指すことが明らかにされました。

最近少しずつですが精神障害者への理解も深まり、小規模作業所等を含む、いわゆる社会復帰施設も増加し又、社会復帰相談指導事業いわゆるデイケアも全保健所（11カ所）で実施されるようになりました。又病院でも開設される所が増えています。このような状況の中で社会復帰を目指す仲間も年々増加しています。

以上のような事をふまえ、今年度は「当事者交流会」を開催し、地域社会の中でどのように暮らしているか等口頃の想いを話し合える場としました。

### 当事者交流会開催要領

#### 1. 目的

精神障害者の自立と社会参加の促進を目指した、精神保健および精神障害者福祉の総合的な社会復帰対策が始まっている状況の中で、各地で精神障害者自身が自らの福祉や保健・医療対策の向上にむけて様々な取り組みが始まっている。

地域のなかでたくましく生活している仲間が交流することにより、精神障害者の自立と社会復帰、社会参加の促進を図る。

#### 2. 対象

県内のデイケアや作業所等社会復帰施設の通所者

#### 3. 交流会の内容

第1回 平成8年1月24日（水）14：00～15：30

- ・交流会の開催にあたって
- ・自己紹介
- ・情報交換 「県内の当事者会等の活動状況」

第2回 平成8年2月15日（木）14：00～15：30

- ・グループ討議
- 「ビデオをみて、仲間づくりを考える」
- ビデオ「ひとりぼっちをなくそう、精神障害者本人の会」

第3回 平成8年3月1日（金）13：30～15：00

- 講演会「患者とは -仲間づくりを求めて-」
- 桃山学院大学 教授 岩田泰夫先生

#### 4. 開催状況

##### 〈第1回〉

(1) 日時 平成8年1月24日（水）

- (2) 参加者 39名
- (3) 内 容 開催要領に基づく
- (4) まとめ 自己紹介や活動報告の発言者には、その都度拍手が送られ、日頃の作業所やDCでの様子が伺われた。また、活動報告には質問も出されなごやかな会となった。(顔見知りのメンバーも多い様子)  
参加者の多い2、3の作業所からは、指導員やボランティアの引率者の同行もある。予想を上回る多くの参加者があり、会場が狭かったことが残念であった。

〈第2回〉

- (1) 日 時 平成8年2月15日(木)
- (2) 参加者 34名
- (3) 内 容 開催要領に基づく
- (4) まとめ ビデオ(ひとりぼっちをなくそう!!)の上映時間が40分余りと少し長すぎた感があった。途中、4～5名のメンバーが席を立てて部室を出る。それでも1～2回笑いが起こることもあった。  
最後にセンターの事業などについての質問も出され、10分間延長して閉会。

〈第3回〉

- (1) 日 時 平成8年3月1日(金)
- (2) 参加者 21名
- (3) 内 容 開催要領に基づく  
当事者交流会についてのアンケート調査を実施  
アンケート調査表(後記)
- (4) まとめ “セルフヘルプグループ”について、わかりやすく話しかける様に講義される。質疑の時間には、5人のメンバーから、友人関係についての悩み、友だちづくりの難しさなどについての意見や質問が出され、予定時間を10分オーバーして閉会。



• どのようなプログラムを希望しますか。

- a 講演会や学習会
  - b レクリエーション（卓球、カラオケなど）
  - c 作業所など社会復帰施設の見学
  - d 作業所やデイケアについての情報交換会
  - e 仲間との自由な話し合い
  - f 家族会やボランティアとの話しあい
  - f ハイキングなどの野外活動
  - g その他（自由に書いて下さい）
- 

3. 日常生活の状況について

- (1) 共同作業所へ通所している。 (1週間に 回)
- (2) デイケアへ通所している。 { 保健所デイケア（こころの健康センターも含む）  
(1カ月に 回)  
病 院 “ (1週間に 回)
- (3) 就職している。 { 常 勤  
パート  
アルバイト  
その他（ ）
- (4) 家事手伝い
- (5) そ の 他（ ）

4. 悩み事や困ったことがある時には誰に相談しますか。

- 家 族
- 友 達
- 病院関係者（主治医・ワーカー等）
- 保健所の職員（保健婦等）
- 作業所の職員
- ボランティア
- そ の 他
- 相談しない

5. 余暇の過ごし方について

- 家で過ごすことが多い
- 友達と出かける（ボーリング、カラオケ等）
- ひとりで買い物などに出かける
- 図書館や文化センターなどで過ごす
- そ の 他（ ）

6. 「精神障害者保健福祉手帳」の制度について知っていますか。

a よく知っている

↓  
どこで知りましたか

- 雑誌や新聞など
- 保健所の職員
- 家族
- 作業所の職員
- 友達
- その他 ( )
- 病院関係者 (主治医)

b あまり知らない (・もっと詳しいことを知りたい ・とくに知りたいとは思わない)

c 全然知らない (・詳しいことを知りたい ・とくに知りたいとは思わない)

7. 今後、どのような援助を望まれますか。自由に書いてください。

III 調査結果

〈当事者交流会アンケート集計〉

1. 性別および年齢

性別 \ 年代別		年代別			
		20才代	30才代	40才代	50才以上
性別	小計				
男性	14	2	5	5	2
女性	7	2	1	1	3
合計	21	4	6	6	5

2. 当事者交流会について

(1) 参加動機 (複数回答)

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
ちらしを見て、自らすすんで	5		2	3	
作業所や家族会からのすすめ	14	4	4	3	3
保健所からのすすめ	1		1		
DCや作業所の仲間からの誘い	—				
その他	—				
無回答	1				1



(2) 参加して感じたこと（複数回答）

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
仲間と話ができた	6	1	2	2	1
他の作業所やDCの様子がわかった	6	1	1	3	1
ビデオをみて全精進等のがわかった	5	1	2	1	1
仲間のグループができるとよい	6		3	1	2
グループができたら入会したい	2		1	1	
参加者ともっと話したかった	5	1	1	2	1
参加したがあまりよくなかった	—				

〈参加して感じたこと（自由記載）〉

- ・当事者自身で詩を書き、その集まりで病気の話や悩み事など話し合っている。自分たちで自費出版の夢を掲げ一団となり愉しく歩んでいます。詩の世界だけでなく当事者同士の病への支えになっています。
- ・「くるみの会」と言う会をつくっています。(20才代男性)
- ・いい事だと思います。ありがとうございました。(30才代男性、50才以上女性)
- ・先生は話がよくわかるようにしている。先生の頭はかなりよさそう。(30才代男性)
- ・この会に参加して全国の仲間のことや、一人であってはいけない、仲間をつくることの大切さがよくわかりました。(30才代男性)
- ・いろいろな当事者に会ったり見たりできてよかった。(30才代男性)
- ・岩田先生の話聞いて、自分から話すことによって自分自身が極されるとのことだったが、私自身も消極的な性格なので、もっと積極的に自分の体験を話すべきだと感じた。(30才代男性)
- ・当事者のグループがあることが参加して始めてわかった。北海道のすみれ会を三重県でも作りたいと思った。今は作業所に行っていますが、当事者の為の会を県内に広めたい。(40才代男性)
- ・「ひとりぼっちをなくそう、！」のビデオを見て、私自身今一人で生活をして、仲間を作ってきました。(40才代男性)
- ・こちらの世界に長居するより、早くあちらの世界にもどった方がいいような気がする。グループができると生活習慣や価値観が固定化する可能性がある。私はとてもひどいことを考えていると思いますが本音です。(40才代男性)
- ・援護寮に3人で生活しているが、上手に暮らすことはなかなか難しいことだと思うので、他のグループがどうやっているかを知りたい。(50才以上男性)
- ・「ひとりぼっちをなくそう、！」のビデオはかねがね観たいと思っていたので感動しました。(60才以上男性)
- ・もっと感情的なことについて深く話し合いがしたかった。Pt同志が深くつながりあえたと感



じることができなくて残念だった。

〈講演の感想〉

- ・先生のお話は教科書の道徳の本みたいな内容だなあと本心は思いました。人間ってもっと複雑なものだと思いました。そして、わかりあうことは難しくセルフヘルプも難しいと思いました。(20才代女性)
  - ・仲間はどんなときにでも作れると思った。みんなが平等でいつまでもその時が続けば良いなあ…と願っています。(20才代女性)
  - ・皆が望んでいることをもっと知りたかった。(50才代女性)
- (3) 今後の当事者交流会について
- ・今後の参加希望

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
参加したい	16	3	5	5	3
参加したくない	—				
どちらともいえない	2	1	1		
無回答	3			1	2

・希望する開催回数

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
1年に3～4回	7	2	1	3	1
1年に1～2回	8	1	4	2	1
1年に1回	1				1
無回答	5	1	1	1	2

・希望するプログラム（複数回答）

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
講演会や学習会	6	1	1	2	2
レクリエーション(卓球、カラオケ等)	5	2	1	1	1
社会復帰施設の見学	6	1	2	3	
作業所やDCについての情報交換	9		3	4	2
仲間との自由な話し合い	7	3	1	2	1
家族会やボランティアとの話し合い	5	1	2	2	1
ハイキングなどの野外活動	5	1	3	1	
無回答	1				1

〈その他の希望〉

- ・なんらかのテーマにそったPt同志の話し合いをしてみたい。(20才代女性)

3. 日常生活の状況について

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
作業所通所のみ	6	1	3	2	
D C のみ	1		1		
作業所とD C	5	2	1	1	1
就職と作業所	2	1	1		
就職とD C	1			1	
就職とD Cと作業所	1			1	
D Cと家事手伝い	2		1	1	
家事手伝いのみ	1	1			
その他	1				1 (失業中)
無回答	2				2

・作業所へ通所状況

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上	
作業所へ通所	13	4	5	3	1	
D C へ 通所 (11)	保健所	9	1	2	4	2
	病院	5	1	2		1
就職し ている (3)	常勤	1		1		
	パート	1		1		
	アルバイト	1				
家事手伝い	1			1		
その他	1				1 (失業中)	
無回答	2				2	

4. 悩み事や困ったときの相談先(複数回答)

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
家族	8	4	4		
友達	8	2	2	2	2
病院関係者	9	1	4	2	2
保健所の職員	4		3	1	
作業所の職員	2		1	1	
ボランティア	4	3		1	
その他	2	1 (TEL相)			1
相談しない	2			2	
無回答	1				1

5. 余暇の過ごし方（複数回答）

	計	20才代	30才代	40才代	50才以上
家で過ごすことが多い	6	1	3	1	1
友達と出かける	8	2	3	2	1
一人で買い物等にでかける	8		5	2	1
図書館で過ごす	2			2	
その他	5	1	2	2	
無回答	2				2

〈その他〉

- ・家族と出かける
- ・作業所やDCで過ごす

6. 「精神障害者保健福祉手帳」の制度について

		計	20才代	30才代	40才代	50才以上
よく知っている		12	3	3	3	3
情報源 (複数回答)	雑誌や新聞	3		2		1
	家族	—				
	友達	2	1			1
	病院関係者	1		1		
	保健所の職員	3	1	1	1	
	作業所の職員	5	1	2	1	1
	その他	3	1		1	1

〈その他〉

- ・市役所
- ・厚生省のヒアリングに参加

		計	20才代	30才代	40才代	50才以上
あまり知らない		5	1	1	3	
	もっと知りたい	4	1	1	2	
	知りたくない	1			1	
全然知らない		3		2		1
	知りたい	1				1
	知りたくない	1		1		
	無回答	1		1		
無回答		1				1

7. 今後、希望する援助について（自由記載）

- ・ビデオにでてきた他の都道府県のように、久居の体育館でのフェスティバル以上にもっともっと

みなさんと交流したい。(20才代男性)

- ・社会の人と、どの様に付き合っていけばいいでしょうか。(30才代男性・50才代男性)
- ・当事者が自立していけるような援助(30才代男性)
- ・T&Tの作業所から当事者の会を作りたいと思います。(40才代男性)
- ・お金がすくなくすぎます。よろしく。(40才代男性)
- ・生活支援センターができて、生活全般について相談できる所があれば良いと思います。(50才代男性)
- ・心のバランスが崩れそうになった時に、少しでもいいから人間らしい思いやりにふれたいと思います。(20才代女性)

## 「当事者交流会についてのアンケート」まとめ

### 1. 参加者の性別および年齢

男性14名、女性7名であり、30・40才代が各6名、50才以上5名、20才代4名であった。

### 2. 当事者交流会について

#### (1) 参加動機

参加者21名中14名が「作業所や家族会からすすめられて」参加している。

#### (2) 参加した感想

- ・「仲間との話しができた」「他の作業所やDCの様子がわかった」「仲間のグループができるとよい」という感想が一番多く、次いで「もっと話したかった」「全精連のことがわかった」となっている。

〈自由記載のなかから〉

- ・一人ではいけないこと、仲間同士の語り合う場や仲間づくりが大切であること、県内でもグループができるといいという感想のほか、当事者同志が仲間づくりを始めている様子も紹介されており、当事者間の交流が望まれている感想が多く出された。
- ・講演を聞いた感想として、積極的に自分の体験を話すことが大切であるという意見の他、わかりあうことは難しくセルフヘルプも難しいという感想もあった。

#### (3) 今後の交流会について

- ・今後交流会があれば、「参加したい」と答えたものは21名中16名であった。「参加したくない」と回答したものはなかった。
- ・希望する参加回数は、1年に1～2回が8名、1年に3～4回が7名であった。
- ・プログラムへの希望は、「作業所やDCの情報交換」が一番多く、次いで「自由な話し合い」「講演会や学習会・施設見学」「レクリエーション・家族会等との話し合い」の順であった。

### 3. 日常生活の状況

- ・作業所通所のみ（5名）、作業所とDC（6名）と答えたものが21名中11名あった。
- ・作業所通所者は13名、DC通所者（HC 9名・HP 5名）11名であり、就職しているものは3名であった。

### 4. 悩み事や困ったときの相談者

- ・病院関係者（9名）家族や友達（各8名）と答えたものが多く、次いで保健所の職員やボランティア（各4名）となっている。また、「相談しない」と答えたものが2名あった。

### 5. 余暇の過ごし方

- ・友達と出かける、一人で買い物（各8名）、家で過ごす事が多い（6名）と答えたものが多かった。

### 6. 「精神障害者保健福祉手帳」制度について

- ・「よく知っている」と答えたものは、半数以上の12名であった。
- ・「あまり知らない・全然知らない」と答えた8名中5名は、「もっと知りたい」と答えているが、「知りたくない」と答えたものも2名あった。
- ・「知っている」と答えたものの情報源は、作業所や保健所の職員が8名と多かった。また、厚生省のヒアリングに参加したものが1名あった。

### 7. 今後、希望する援助

- ・こころの健康フェスティバルや当事者会等交流の場がほしい。
- ・自立への援助、生活支援センターの設置等生活全般についての相談場所がほしい。
- ・社会の人々との付き合い方についての指導。
- ・助成金？の増額。

### (3) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に、現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とするがゆえにさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスクミを始めとし社会的な関心が高まっている。

また、拒食症、心身症なども増加の傾向にある。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものも変わりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子どもをもつ家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

#### (ア) 思春期講座の概要

### 平成7年度思春期講座実施要領

1. 目 的 思春期は人間の一生の中でも身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期で、この時期は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりやすい。時には、不登校、家庭内暴力、心身症などの思春期における心の問題が生じる。  
この講座では、思春期の子どもをもつ家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める。
2. 実施主体 三重県こころの健康センター
3. 期 間 平成7年10月12日～平成8年2月8日  
毎月1回（第2木曜日） 午後1時30分～午後3時30分
4. 場 所 三重県こころの健康センター
5. 対象者 思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方
6. 内 容 講義 グループワーク
7. 定 員 20名
8. 受講料 無料
9. 案 内 別紙

#### 10. 申込方法および期日

別紙申込書により、三重県こころの健康センターへ申し込む

締切り 9月22日（但し、定員になり次第締切る）

#### 11. 申込先

〒514-11

久居市明神町2501-1 三重県こころの健康センター

☎ 0592-55-2151

### 思 春 期 講 座 の ご 案 内

三重県こころの健康センター

思春期は人間の一生の中でも、身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期です。この時期の子ども達は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりがちです。時には、不登校、家庭内暴力、そして心身症などの思春期における心の問題が生じます。

今回、この講座は、思春期における心の問題や疑問を解決していくための勉強や話し合いなどを通じて、これらの青少年に対するよき理解者としての家族を目指していくものです。

#### 記

1. 日 時 平成7年10月12日（木）～平成8年2月8日（木）  
毎月第2木曜日（午後1時30分～3時30分）
2. 場 所 三重県こころの健康センター
3. 内 容 下記プログラムをご覧ください
4. 対象人員 思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方 20名
5. 申し込み 申込書に必要事項をご記入の上、申込先までお送りください。  
締切り 9月22日  
定員に達し次第締め切らせていただきます。
6. 申し込み先及びお問い合わせは  
久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎一階  
三重県こころの健康センター ☎ 0592-55-2151

平成7年度 思春期講座プログラム

期 日	内 容 お よ び 講 師
平成7年 10月12日	クリニックを訪れる思春期 宝積クリニック 院長 宝積己知子
11月9日	心理治療からみた思春期 長澤教育臨床研究所 所長 長澤 哲史
12月14日	一行詩「父よ母よ」からみた思春期 県立津東高等学校 教諭 吉村 英夫
平成8年 1月11日	グループワーク 思春期の体験を通して子どもを理解する こころの健康センター 主査(臨床心理士) 久保早百合
2月8日	グループワーク 子どもの自立をめぐる こころの健康センター 主幹(精神科医) 松崎 まみ 主査(臨床心理士) 久保早百合

(4) 思春期講座の経過

参加者は24名であった。地域を保健所管内別にみていくと、津が8名と多く、ついで伊勢、久居が各4名、桑名が3名、四日市2名、上野、松阪、熊野が各1名の参加となっている。子どもが示す問題の内容も、不登校、摂食障害、心身症などの適応障害にとどまらず、分裂病の初期症状と思われる精神病圏まで、幅広い範囲のものを含んでいた。

第1回

宝積クリニックの宝積院長が、クリニックを訪れる思春期の子どもたちの悩みについて、どんなことが訴えられているかを、学校社会・家庭・身体の3項目に分けて具体的に話された。そしてライフサイクルを四季にみたてると〈思春期は〉梅雨どきに見えるかと述べられた。

また、思春期の特徴は、心の変化に気付き“自分らしく”を求め直截に振る舞う。この時期は、自分の気持ちを言葉より動作・行動であらわすことが多いので、親としてはおせっかいなぐらいに思春期の子どもを思いやる気持をもつ、片想いをしてやるのが大事と話された。

第2回

長澤教育臨床研究所長の長澤所長は、親子関係は言葉でなく、心の通じあいが必要であり、ことばの中にひそむものを見る必要があること、また、日常生活の場でなんでもないと思っていることの中に大切なところがあることを強調された。

第3回

県立津東高等学校の吉村先生は、先生が編集された一行詩「面と向かっていえないひと言」「息子よ娘よ」「父よ母よ」の中からお話しをしていただいた。



この一行詩によって親と子がキャッチボールをしはじめた。子どもも親と話をしたがっていた。また親もそうであったが、表現ができなかったり、時がわからなかったが一行詩によりできるようになった。また、この詩を読むうちに「どこの家庭も一緒だ」という思いをもち、不安が少なくなったことなどを具体的に説明された。また、この一行詩から、現代の親子関係が横ならびの友人関係にうつりかわってきたが、なげく必要はないと締めくくられた。

#### 第4回

サイコドラマという形をとりながら、ロールプレイングを通して思春期の子ども達の心の動きを理解する試みを行った。参加者自ら、思春期の時代を回想させられることになり、楽しい気持ちになった方もいれば、葛藤的な気持ちになった方もあったようだった。いづれにしても、それぞれの方が、思春期の気持ちを体験したことについて、今後子ども達の心を理解するのに役立つという、積極的な評価が行われた。

#### 第5回

参加者を2グループに分けて、それぞれ自由に討議された。参加の動機を話し合う中で、親としてどう対応すればよいのかなど、思春期の子ども達の問題を自ら考えようとする姿勢がみられた。このように親が自ら考えようとする姿勢がでてきたことは、この講座の意図する親自身が問題を考え、親自身の姿勢を自ら考えるという目的の出発点であるように考えられた。

#### (ウ) 思春期OB会

思春期講座の参加者の中から、有志が中心となりOB会が結成され、2年が経過した。親自身が自ら姿勢を変えるきっかけが、思春期講座であったとしても、そのことによって具体的な動きを親自らがやっていることが注目される。現在、毎月1回定例会をもち、6人～8人の参加がある。その会では、思春期の子ども達に対して、どのような対応をしていけばよいのか、またできるのかを会員相互に具体的に相談しあっている。体験に基いた話し合いは会員相互の理解をより深め、また具体的な対応を導きだすものとなっているようである。時には陶芸や紙工芸など、親のリフレッシュとしての場もつくっているが、このことが会員相互のより強い親密感を築き、OB会の発展の「礎」となっているようである。

## 7. 精神保健相談

精神保健相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

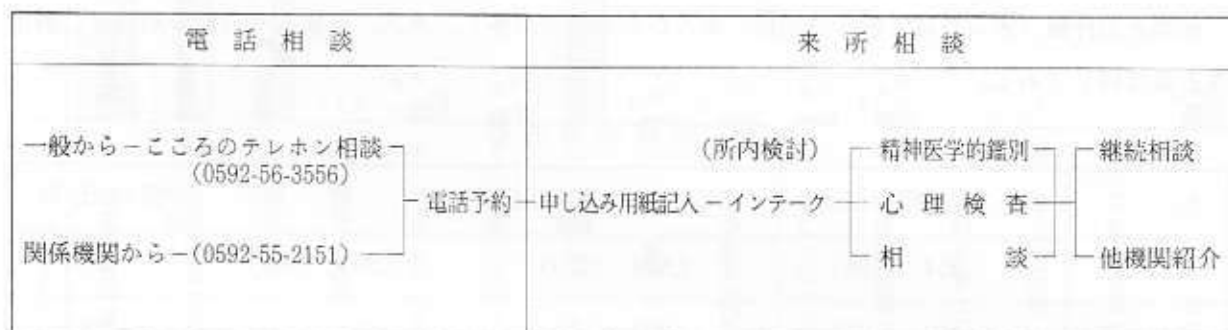
「こころの健康相談」は、思春期・老年期・酒害・ダイエットSOSのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成7年度の相談員は、医師2名（所長、精神科医1名）、保健婦（精神保健相談員）2名、精神ソーシャルワーカー1名、心理技術者1名の計6名である。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後4時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）2名があたっている。

また、時間外については、留守録を利用し、必要な場合には、翌日センターから連絡をとる体制にしている。

相談の流れは、図1に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図1 相談の流れ



平成7年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数は、表1のとおりで、前年度と比べると、来所相談が80%、電話相談が119%で、電話相談が、総件数、新規件数共に、著しく増加している。全体の相談件数は105%でやや増加となっている。

最近5年間の年度別相談件数の推移は表2のとおりで、老年期の相談者の増加が著しい。

表1 平成7年度 相談件数

		件数	構成比
こころの健康相談		1,073 (96)	26.7
こころのテレフォン相談		2,946 (488)	73.3
再掲	思春期	345 (140)	8.6
	老年期	199 (34)	5.0
	酒害	5 (5)	0.1
計		4,019 (584)	100.0

( )内は新規件数再掲

表2 精神保健相談件数（年度別）

		平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度
こころの健康相談 （来所相談）		581 （77）	903 （115）	1,139 （109）	1,344 （104）	1,073 （96）
こころのテレフォン相談		2,772 （320）	3,013 （474）	2,593 （363）	2,472 （361）	2,946 （488）
再 掲	思 春 期	421 （119）	580 （170）	497 （136）	279 （133）	345 （140）
	老 年 期	31 （25）	64 （40）	46 （18）	134 （33）	199 （34）
	酒 害	13 （12）	4 （4）	6 （6）	1 （1）	5 （5）
計		3,353 （397）	3,916 （589）	3,732 （472）	3,816 （465）	4,019 （584）

（ ）内は新規件数再掲

相談者別件数（表3）は、前年度同様、本人からの相談が多く、本人、家族、その他の割合は、前年度とほぼ同じである。

表3 相談者別件数

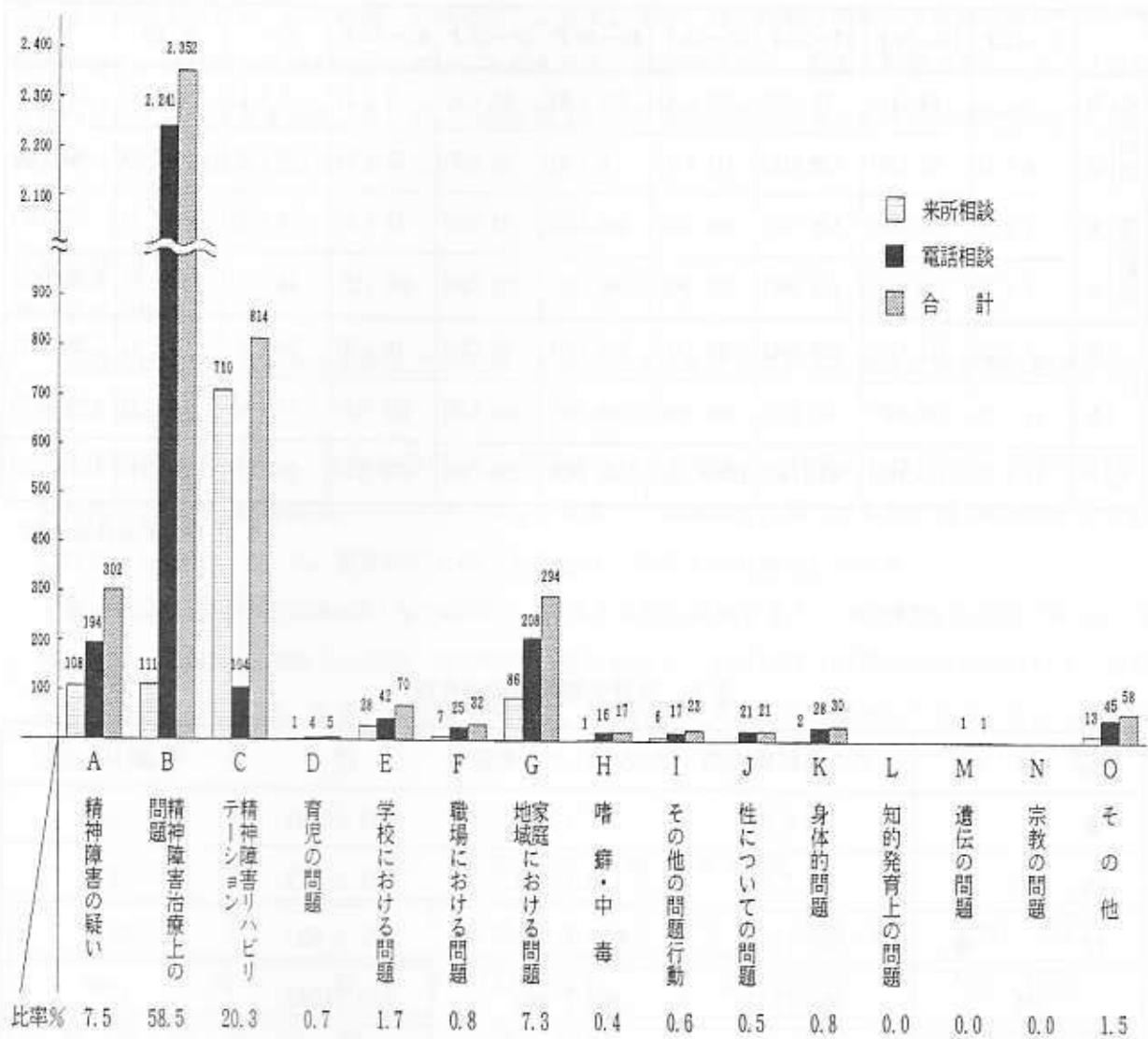
	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比 %
本 人	954 （64）	2,586 （289）	3,540 （353）	88.1
家 族	88 （27）	300 （174）	388 （201）	9.6
そ の 他	31 （5）	60 （25）	91 （30）	2.3
計	1,073 （96）	2,946 （488）	4,019 （584）	100.0

（ ）内は新規件数再掲

相談内容別件数は、図2に示してある。内容を大きく分けると、精神障害に関するもの（精神障害の疑い、精神障害治療上の問題、精神障害リハビリテーション）と適応障害（図D～O）に分けることができる。精神障害に関するものは、全体の86.3%と昨年同様高くなっており、中でも、精神障害治療上の問題が、58.5%で半数以上を占め、治療への不安が多くみられると共に、相談の場が限られていることがうかがわれる。

適応障害の中では、学校における問題、職場における問題、地域・家庭における問題が全体の9.8%、適応障害の中では、71.5%を占める。その中で、前年度と比べると、学校における問題は減少し、地域・家庭における問題は増加している。学校関係では、相談機関等、適応障害を支える機能ができてきているが、職場、地域では、まだ少ないことがうかがわれる。

図2 相談内容別件数



次に性別、年代別相談件数（表4）をみると、来所相談では、男性が女性より多くなっている。ただし、20代、60代では逆転し、女性の方が多。年代では、男性では30代、40代が多く、全体の65%、女性では、20代、30代が多く、全体の67.4%となる。

電話相談では前年度同様、女性が圧倒的に多く、男性の3.5倍となっている。特に、40代、60代で差が著しい。男性を年代別にみると、30代が最も多く、次いで、20代、40代となる。女性では、40代が最も多く、30代、20代と続き、男女共に、30代～40代が多い。全体で見ても、30代、40代の相談が多く、全体の66.4%になる。

表4 性別、年代別相談件数

		0～12才	13～22才	23～29才	30～39才	40～49才	50～59才	60～69才	70～	不明	計
来所相談	男	0	84 (18)	71 (13)	197 (6)	211 (8)	53 (4)	5 (2)	5 (1)	2 (2)	628 (54)
	女	4 (1)	60 (10)	129 (12)	171 (7)	9 (3)	38 (5)	31 (1)	2 (2)	1 (1)	445 (42)
電話相談	男	3 (3)	93 (55)	138 (51)	264 (35)	104 (23)	33 (16)	11 (6)	5 (3)	6 (3)	657(195)
	女	7 (3)	108 (57)	144 (65)	737 (82)	1,039 (31)	102 (28)	126 (12)	14 (7)	12 (8)	2,289(293)
計	男	3 (3)	177 (73)	209 (64)	461 (41)	315 (31)	86 (20)	16 (8)	10 (4)	8 (5)	1,285(249)
	女	11 (4)	168 (67)	273 (77)	908 (89)	1,048 (34)	140 (33)	157 (13)	16 (9)	13 (9)	2,734(335)
合計		14 (7)	345(140)	482(140)	1,369(130)	1,363 (65)	226 (53)	173 (21)	26 (13)	21 (14)	4,019(584)

( )内は新規件数再掲

表5 保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比 %
桑名	26 (3)	77 (37)	103 (40)	2.3
四日市	39 (7)	123 (70)	162 (77)	4.1
鈴鹿	148 (10)	827 (53)	975 (63)	24.3
津	340 (18)	369 (86)	709 (104)	17.7
久居	357 (24)	292 (75)	649 (99)	16.2
松阪	96 (8)	1,012 (42)	1,108 (50)	27.6
伊勢	33 (9)	101 (30)	134 (39)	3.3
志摩	13 (6)	11 (9)	24 (15)	0.6
上野	12 (4)	50 (23)	62 (27)	1.6
尾鷲	3 (2)	21 (12)	24 (14)	0.6
熊野	1 (1)	4 (4)	5 (5)	0.1
県外	3 (3)	28 (23)	31 (26)	0.8
不明	2 (1)	31 (24)	33 (25)	0.8
計	1,073 (96)	2,946 (488)	4,019 (584)	100.0

( )内は新規件数再掲

次に保健所管内別相談件数（表5）をみると、来所相談では久居、津が多く、この2保健所管内で全体の65%を占める。次に鈴鹿、松阪と続く。志摩、上野、特に尾鷲、熊野の4保健所管内の相談件数が少なく、地理的な要因が関係していると思われる。電話相談では、松阪、鈴鹿が多く、この2保健所管内で、全体の62%を占め、次に津、久居と続く。一方新規件数をみると、津、久居が多いが、全体の34%であり、地域差は少なくなっている。

### <特定専門相談>

#### (ア) 思春期相談

思春期は中学生から大学卒業までの年齢（13才～22才）を考えている。表6に思春期の相談内容別件数を示した。

来所相談は144件あり、全体の13.4%で、昨年よりはやや増加、一昨年よりは少ない。内容的には、精神障害の疑い、精神障害リハビリテーションが多く、精神障害に関したものが74.3%となり、件数は昨年より増加している。適応障害に関する相談は、昨年よりも減少している。

電話相談は201件で全体の8.1%で昨年、一昨年と件数を比較すると、来所相談と同様である。内容的には、精神障害治療上の問題、精神障害の疑いがなく、来所相談と同様の傾向がみられる。思春期に関しては、学校内、あるいは地域・家庭で、適応障害を支える場が増加してきていることが、うかがわれる。

表6 思春期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	144 (100.0)	201 (100.0)	345 (100.0)
A 精 神 障 害 の 疑 い	58 (40.3)	52 (25.9)	110 (31.9)
B 精 神 障 害 治 療 上 の 問 題	7 (4.8)	66 (32.8)	73 (21.1)
C 精 神 障 害 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	42 (29.2)	1 (0.5)	43 (12.4)
E 学 校 に お け る 問 題	18 (12.5)	31 (15.4)	49 (14.2)
F 職 場 に お け る 問 題	3 (2.1)	3 (1.5)	6 (1.7)
G 家 庭 に お け る 問 題	7 (4.8)	21 (10.4)	28 (8.1)
H 嗜 癖 ・ 中 毒		5 (2.5)	5 (1.5)
I そ の 他 の 問 題 行 動		5 (2.5)	5 (1.5)
J 性 に つ い て の 問 題		6 (3.0)	6 (1.7)
K 身 体 的 問 題		5 (2.5)	5 (1.5)
M 遺 伝 の 問 題		1 (0.5)	1 (0.3)
O そ の 他	9 (6.3)	5 (2.5)	14 (4.1)

(イ) 老年期の相談

60才以上の老年期の相談は、今年度は199件であり、全体の5.0%で、年々、増加してきている。内容的には、来所相談では、精神障害の疑い、次に家庭における問題で、電話相談では、精神障害治療上の問題、次に精神障害の疑い、家庭における問題と続く。精神障害に関するものが80.4%と多い傾向は、老人に関してもみられる。

表 7 老年期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
総 件 数	43 (100.0)	156 (100.0)	199 (100.0)
A 精神障害の疑い	21 (48.9)	43 (27.6)	64 (32.2)
B 精神障害治療上の問題	1 (2.3)	95 (60.9)	96 (48.2)
F 職場における問題	1 (2.3)	2 (1.3)	3 (1.5)
G 家庭における問題	16 (37.2)	12 (7.7)	28 (14.1)
H 嗜 癖 ・ 中 毒	1 (2.3)	1 (0.6)	2 (1.0)
○ そ の 他	3 (7.0)	3 (1.9)	6 (3.0)

(ウ) 酒害相談

酒害相談は、今年度は家族からの新規の電話相談5件のみである。これは、アルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、各保健所での酒害ケースのコンサルテーションの増加により、直接、当センターに相談がもちこまれることが少ないためと思われる。



### Ⅲ. こころの健康センター図書目録

### 三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤 喬一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤 学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋 薫 編	星和書店
4	アルコール症 (J. フォート著)	大森 正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元 波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井 孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	兎島 美都子 著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾 実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子 (J. A. L. ジング著)	中野 善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合 隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合 隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下 格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井 末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉 (厚生行政百問百答)	厚生省 監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析 1	小比木 啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析 2	小比木 啓吾 著	誠信書房
17	講座 家族精神医学 1	加藤 正明 共編	弘文堂
18	講座 家族精神医学 2	加藤 正明 共編	弘文堂
19	講座 家族精神医学 3	加藤 正明 共編	弘文堂
20	講座 家族精神医学 4	加藤 正明 共編	弘文堂
21	講座 日本の老人 1 老人の精神医学と心理学	金子 仁郎 共編	垣内出版
22	講座 日本の老人 2 老人の福祉と社会保障	岡村 重雄 共編	垣内出版
23	講座 日本の老人 3 老人と家族の社会学	那須 宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村 護郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木 隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者 (R. D. レイン著)	志貴 春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省 監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本 和雄 共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤 正明 共訳	医学書院

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫 著	医学書院
31	社会精神医学の実際 1	加藤伸勝 編	医学書院
32	社会精神医学の実際 2	佐藤亮三 編	医学書院
33	社会精神医学の実際 3	逸見武光 編	医学書院
34	社会精神医学の実際 4	加藤伸勝 編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義 編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ 6 小児のMBD	上村菊朗 共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ 7 登校拒否症	若林真一郎 著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ 8 小児のてんかん	福山幸夫 著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ 13 小児の糖尿病	田中美郷 著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ 14 自閉症	村田豊久 著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ 15 小児の心身症	河野友信 著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ 20 夜尿症	三好邦雄 著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋 共編	医学書院
44	事例検討と看護実践	外口玉子 編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子 編	バオバブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省 監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合準雄 編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司 著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄 編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良 共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典		メディカルビュー
53	増補版 精神医学辞典	加藤正明 共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭 編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫 著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫 共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫 共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫 共編	医学書院
59	精神衛生のための100か条	中沢正夫 著	創造出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科 MOOK 3 覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科 MOOK 4 境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科 MOOK 6 思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科 MOOK 8 老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー I 精神療法の基礎	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー II 精神分析の治療機序	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー III フロイトの治療技法論	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー V 発達とライフサイクルの視点	小比木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年 1 (上) 中高年健康管理学	篠野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年 1 (下) 中高年健康管理学	篠野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年 2 中高年女性学	篠野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年 3 収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年 4 老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年 5 中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	日本の中高年 6 病める老人を地域でみる	前田信雄 著	垣内出版
91	ニュー セックスセラピー	野末源一 訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上英二 編	講談社
93	方法としての事例検討	外口玉子 著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上和雄 共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木浩二 訳	誠信書房
96	ポウルビィ母子関係入門	作田勉 訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村恒郎 著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原健志郎 編	中央法規出版
99	森田正馬全集 1	森田正馬 著	白揚社
100	森田正馬全集 2	森田正馬 著	白揚社
101	森田正馬全集 3	森田正馬 著	白揚社
102	ユキの日記	笠原嘉 編	みすず書房
103	病むということ	江畑啓介 訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川中共 訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中淑彦 共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口玉子 編	パオパブ社
107	臨床てんかん学	和田豊治 著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川和夫 共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田晋 著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎俊久 編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅貴夫 編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏君上 著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川和夫 著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤伸勝 監訳	医学書院

## 63年度以降購入分

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	現代精神医学大系 1 A 精神医学総論 I		中山書店
2	現代精神医学大系 1 B 1 a 精神医学総論 II a 1		中山書店
3	現代精神医学大系 1 B 1 b 精神医学総論 II a 2		中山書店
4	現代精神医学大系 1 B 2 精神医学総論 II b		中山書店
5	現代精神医学大系 1 C 精神医学総論 III		中山書店
6	現代精神医学大系 2 A 精神疾患の成因 I		中山書店
7	現代精神医学大系 2 B 精神疾患の成因 II		中山書店
8	現代精神医学大系 2 C 精神疾患の成因 III		中山書店
9	現代精神医学大系 3 A 精神症状学 I		中山書店
10	現代精神医学大系 3 B 精神症状学 II		中山書店
11	現代精神医学大系 4 A 1 精神科診断学 I a		中山書店
12	現代精神医学大系 4 A 2 精神科診断学 I b		中山書店
13	現代精神医学大系 4 B 精神科診断学 II		中山書店
14	現代精神医学大系 5 A 精神科治療学 I		中山書店
15	現代精神医学大系 5 B 精神科治療学 II		中山書店
16	現代精神医学大系 5 C 精神科治療学 III		中山書店
17	現代精神医学大系 6 A 精神症と心因反応 I		中山書店
18	現代精神医学大系 6 B 精神症と心因反応 II		中山書店
19	現代精神医学大系 8 人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系 9 A 躁うつ病 I		中山書店
21	現代精神医学大系 9 B 躁うつ病 II		中山書店
22	現代精神医学大系 10 A 1 精神分裂病 I a		中山書店
23	現代精神医学大系 10 A 2 精神分裂病 I b		中山書店
24	現代精神医学大系 10 B 精神分裂病 II		中山書店
25	現代精神医学大系 12 境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系 15 A 薬物依存と中毒 I		中山書店
27	現代精神医学大系 15 B 薬物依存と中毒 II		中山書店
28	現代精神医学大系 18 老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系 23 A 社会精神医学と精神衛生 I		中山書店



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	現代精神医学大系 23B 社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店
31	現代精神医学大系 23C 社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系 24 司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系 25 文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門(正統)	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小比木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小比木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小比木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレベリンの精神医学1巻 精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレベリンの精神医学2巻 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレベリンの精神医学3巻 心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理 1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理 2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理 3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理 4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理 5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児(者)の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1. 子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3. 発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7. 発達の保障と教育		岩波書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	分裂病の精神病理 4	萩野恒一編	東京大学出版会
61	青年の精神病理 1	笠原嘉・清水将之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理 2	小比木啓吾編	弘文堂
63	青年の精神病理 3	清水将之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座 生活ストレスを考える 1. 生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座 生活ストレスを考える 2. 生活環境とストレス	山本和郎編	垣内出版
66	講座 生活ストレスを考える 3. 家族生活とストレス	石原邦雄編	垣内出版
67	講座 生活ストレスを考える 4. 職場集団にみるストレス	坂本弘編	垣内出版
68	講座 生活ストレスを考える 5. 学校社会のストレス	安藤延男編	垣内出版
69	メラニーライン著作集1. 子どもの心的発達	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニーライン著作集3. 愛、罰そして償い	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニーライン著作集4. 妄想的・分裂的世界	責任編訳・小比木啓吾・岩崎徹他	誠信書房
72	メラニーライン著作集6. 児童分析の記録I	山上千鶴子訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見 上	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
75	無意識の発見 下	アンリ・エレンベルガー著・木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
76	新しい子ども学 3巻 1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学 3巻 2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学 3巻 3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集 1 児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集 2 自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集 3 家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集 4 家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集 5 児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集 6 児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集 7 ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・坂本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集 8 ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・坂本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集 9 児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集 10 児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学 2 パーソナリティ		岩波書店



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	異常心理学講座 4 巻 1 学派と方法	上原健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座 3 人間の生涯と心理	上原健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座 4 神経症と精神病 1	上原健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座 5 神経症と精神病 2	上原健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集 1 精神病理学研究	井村恒郎著	みすず書房
95	井村恒郎著作集 2 脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集 3 分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・臺弘監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎著	金剛出版
99	叢書・精神の科学 1 巻精神の幾何学	安永浩著	岩波書店
100	叢書・精神の科学 2 巻シンファンの病い	小出浩之著	岩波書店
101	叢書・精神の科学 4 治療の場からみた分裂病	坂本暢典著	岩波書店
102	叢書・精神の科学 5 正気の発見	内沼幸雄著	岩波書店
103	叢書・精神の科学 6 心身症と心身医学	成田善弘著	岩波書店
104	叢書・精神の科学 7 意識障害の人間学	河合逸雄著	岩波書店
105	叢書・精神の科学 8 境界事象と精神医学	鈴木茂著	岩波書店
106	叢書・精神の科学 10 精神と身体	遠藤みどり著	岩波書店
107	叢書・精神の科学 11 脳と言語	野上芳美著	岩波書店
108	叢書・精神の科学 12 貧困の精神病理	大平健著	岩波書店
109	叢書・精神の科学 13 「非行」が語る親子関係	佐々木讓・石附敦著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治編	誠信書房
112	生きること かかわること	村上英治監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論（フェッバーン著）	山口泰司訳	文化書房博文社
114	臨床的对象関係論（フェッバーン著）	山口泰司・原田千恵子訳	文化書房博文社
115	性的例錯（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫訳	みすず書房
116	性の逸脱（ストー著）	山口泰司訳	理想社
117	子どもの治療相談① 適応障害・学業不振・神経症	ウイニェット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談② 反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウイニェット著・橋本雅雄翻訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井寛著	日本文化科学社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
120	家族療法 (ジュエィ・ヘイリィ著)	佐藤悦子訳	川島書店
121	夫婦家族療法I (Dグリック D・Rケスラー著)	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前川重治著	慶応通信
124	コミュニテイ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巖・荒井元博編	ミネルウェア書房
126	日常性の精神医学 (ヴェン・デン・ベルグ著)	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋 條 治	岩崎学術出版社
131	身体の心理学 (P・シルダー著)	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄監訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでもの精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1 母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2 父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3 エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4 攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5 夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6 創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7 病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9 子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10 青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
150	日本人の深層分析11 老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー 生きられる時間 1	中江育生・清水誠 訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー 生きられる時間 2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー 精神分裂病	村上仁 訳	みすず書房
159	異常心理学講座 第9巻	土居健郎・菅原謙・宮本史郎・木村敏責任編集	みすず書房
160	E.クレーペリン <精神医学>2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修 加藤 伸勝	医学書院
165	PS.Powers, R.C.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編 ハンドブックグループワーク	馬場禮子 監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園昌久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司 編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛 訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎監修	日本集団精神療法学会 発売:星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー 裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウイニコット 子どもと家庭	牛島定信 監訳	誠信書房
174	医心理学	原田謙一・小片寛・瀧沢千尋・巽信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子 編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンス インターナショナル
178	生活と福祉 別冊事例集 アルコール依存症 および精神障害特集		全国社会福祉協議会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
179	バトグラフィ双書3 宮沢賢治	福島章	金剛出版
180	バトグラフィ双書6 ドフトエフスキー	荻野恒一	〃
181	バトグラフィ双書8 ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	バトグラフィ双書9 志賀直哉	鹿野達男	〃
183	バトグラフィ双書10 川端康成	稲村博	〃
184	バトグラフィ双書12 高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK 2 家族精神医学	編集企画 西園昌久	金原出版
186	〃 5 アルコール関連障害	〃 加藤正明	〃
187	〃 9 精神分裂病の治療と予後	〃 山下格	〃
188	〃 11 身体疾患と精神障害	〃 原田憲一	〃
189	〃 12 対人恐怖症	〃 高橋徹	〃
190	〃 13 躁うつ病の治療と予後	〃 更井啓介	〃
191	〃 14 青少年の社会病理	〃 藤原豪	〃
192	〃 15 精神療法の実際	〃 吉松和哉	〃
193	〃 16 自殺	〃 春原千秋	〃
194	〃 17 法と精神医療	〃 逸見武光	〃
195	〃 18 家庭と学校の精神衛生	〃 山田通夫	〃
196	〃 19 森田療法—理論と実際	〃 大原健士郎	〃
197	〃 20 精神科救急医療	〃 山崎敏雄	〃
198	〃 21 睡眠の病態	〃 菱川泰夫	〃
199	ヤスバース精神病理学研究	藤森英之 訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園呂久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	岩林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆 編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.M. アンダーソン・D.J. レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子 監訳	〃
208	C.M. アンダーソン・D.J. レイス・G.E. ハガティ 著 分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子 監訳	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	金剛出版
210	DSM-Ⅲ-R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤縄昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嗣共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	“ ②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲与志郎編	“
215	“ ③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	“
216	“ ④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	“
217	“ ⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明監・村田信男・藤井克徳編	“
218	“ ⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	“
219	“ ⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	“
220	“ ⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	“
221	“ ⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	“
222	“ ⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	“
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	“
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斎三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 I 描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 II 家族画による診断と治療	“	金剛出版
232	臨床描画研究 III 思春期、青年期の病理と描画	“	金剛出版
233	臨床描画研究 IV 描画の臨床的活用	“	金剛出版
234	臨床描画研究 V イメージと臨床	“	金剛出版
235	臨床描画研究Annex1 家族イメージとその投影	“	金剛出版
236	“ 2 私の表現病理学	“	金剛出版
237	“ 3 描画を読むための理論背景	“	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田晋、岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三 編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である H. S. サリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出 J. レフ C. ヴォーン著	三野善央、牛島定信 訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子 監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一 監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際 I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際 II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開 ジョンヘイリー著	高石昇、横川恵子 訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野 裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水将之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病用面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2 登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	土居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望(青年期)	鶴幹八郎、山本方、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会の作り方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ G.R. バターソン	大淵憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補 精神発達と精神病理	北川穂之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田 眞	医学書院
264	医学モデルを超えて E. G. ミシュラー著	尾崎新、三宅山子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4 強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期 美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		財団法人日本公衆衛生協会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
269	人と場をつなぐケア	外 口 玉 子	医 学 書 院
270	精神分裂病研究の進歩	藤 縄 昭	星 和 書 店
271	「家族」と治療する	石 川 元	未 米 社
272	初期分裂病	中 安 信 夫	星 和 書 店
273	自己愛と境界例 J. F. マスターソン著	富山幸佑、尾崎新 訳	星 和 書 店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術 L. S. グリックマン著	荒木志朗、柴田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高 木 四 郎	慶 応 通 信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木 時 雄	弘 文 堂
278	新版 精神衛生	小杉正太郎 編著	川 島 書 店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会 編	保 健 同 人 社
280	メンタルヘルス	加 藤 正 明	創 元 社
281	ライフサイクル精神医学	西 園 昌 久	医 学 書 院
282	コーフト自己心理学セミナー 1 ミリアム・エルソン編	伊 藤 洸 監訳	金 剛 出 発
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上重紀	医 学 書 院
284	青年期の精神科臨床	清 水 将 之	金 剛 出 版
285	ブローラー精神医学総論	切 替 辰 哉	中 央 洋 書 出 版
286	生涯発達学 R. Mラーナー N. Aブッシュ ロスナガール編	上 田 礼 子 訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一 編集 橋爪いのちの電話 調査研究部 編	川 島 書 店
288	地図は現地ではない	中 沢 正 夫	明 文 社
289	岩波講座 子どもの発達と教育4 幼年期発達段階と教育1		岩 波 書 店
290	精神医学の臨床研究 サリヴァン	中井久夫、山口直彦、松川周吾 訳	み す ず 書 房
291	治療のダイナミックス	森 俊 一、渡 辺 登	岩 波 書 店
292	心理療法の諸原則 上 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
293	心理療法の諸原則 下 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
294	錯覚と脱錯覚	北 山 修	岩 崎 学 術 出 版
295	サイコセラピー練習帳	丸 田 俊 彦	岩 崎 学 術 出 版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斎藤友紀雄	新 曜 社
297	分裂病の精神病理 16	上 居 健 郎	東 京 大 学 出 版 社
298	森田式精神健康法	長 谷 川 洋 三	三 笠 書 房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本 収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信 著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優 訳	金剛出版
304	無意識1 無意識へのプロレゴメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2 無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3 神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4 無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5 無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 ダニエル・パウル シェレーパー著	渡辺哲夫 訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田 晋	思索社
311	分裂病と他者	木村 敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田 専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち シンシア・R. フェファー	高橋祥友 訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田山子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	〃
316	心理療法論考	河合隼雄	新曜社
317	老いのソウロロジー (魂学)	山中康裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本 訳	星和書店
319	老人虐待	金子善彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田一民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上田 基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	鳥田照三 森田啓吾 横山桂子 著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑨乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾 渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ヶ瀬康子 十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ヶ瀬康子 仲村優一 北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田哲雄 著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子 杉浦	ミネルヴァ書房



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版
330	逆転移1	ハロルド・P・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	笠原 嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原 浩 著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木 浩 監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川 義博 著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・P・マスターソン著 富山幸佑 尾崎新著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎 長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大 工 原 秀 子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大 工 原 秀 子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング B・モリス編 高木隆郎 監訳	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	土居健郎 笠原嘉 宮本忠雄 木村敏貞任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集 1 分裂病	中 井 久 夫	岩崎学術出版社
343	” 2 治療	”	”
344	” 3 社会・文化	”	”
345	” 4 治療と治療関係	”	”
346	” 5 病者と社会	”	”
347	” 6 個人とその家族	”	”
348	” 別巻1 中井久夫共著論文集	山 中 康 裕 編	”
349	” 別巻2 H・NAKAI 風景構成法	山 口 直 彦 編	”
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木 富上 夫 編 著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康 ①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也 小此木啓吾 武田専監修	東海大学出版会
352	” ②企業と中高年	”	”
353	” ③企業と家族	”	”
354	” ④企業と転勤	”	”
355	” ⑤個人と性格	”	”
356	安永治著作集 1 ファントム空間論	安 永 治	金剛出版
357	” 2 ファントム空間論の発展	”	”
358	” 3 方法論と臨床概念	”	”

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際 1	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際 2	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例 私の治療	融道男編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	明文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座 第十巻 文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変調症	S・W・ハートン H・S・アキナル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦 河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子 著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4 職場の病	河野友信 編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	明文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会 田中英樹 他	明文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	“ 1992 Vo3 No1	“	“
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授還暦記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆 中川賢幸 編	星和書店
379	臨床心理学体系 ①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄 福島章 他編集	金子書房
380	“ ②パーソナリティ	小川捷之 託摩武俊 他編集	“
381	“ ③ライフサイクル	小川捷之 斉藤久美子 他編集	“
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦 編	金剛出版
383	安永浩著作集 症状論と精神療法	安永浩	“
384	精神保健福祉の展開	岡上和雄 編	相川書房
385	臨床心理学大系4 家族と社会	岡堂哲雄、鎌幹八郎 馬場禮子 編集	金子書房
386	“ 5 人格の理解①	安香宏、田中富上 福島章 編集	“
387	“ 6 “ ②	村瀬孝雄、大塚義孝 安香宏 編集	“
388	“ 7 心理療法①	小此木啓吾、成瀬悟策 福島章 編集	“
389	“ 8 “ ②	上里一郎、鎌幹八郎 前田重治 編集	“

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
390	臨床心理学大系9 心理療法③	河合隼雄、水島恵一 村瀬孝雄 編集	金子書房
391	“ 10 適応障害の心理臨床	安井健三、小川捷之 安香 宏 編集	“
392	“ 11 精神障害の心理臨床	福島章、村瀬孝雄 山中康裕 編集	“
393	シリーズ精神科症例集① 精神分裂病1-精神病理-	木村 敏 責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯浅修一 編	星和書店
395	“ ③	中井久夫	“
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵恵美 監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ サラリーマン・アパシー	延島信也 編	同朋舎
398	“ 働く女性のメンタルヘルス	馬場房子 編	“
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	明文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著 口麗公和訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝沢武久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレベリン 著 伊達 徹 訳	みすず書房
403	河合隼雄著作集 5 昔話の世界	河合隼雄	岩波書店
404	“ 6 子どもの宇宙	“	“
405	“ 13 生きることと死ぬこと	“	“
406	地域精神保健実践シリーズ② 保健デイケア	全国精神保健相談員会編 田中英樹 ほか著	明文社
407	慢性疾患と家族	フロマワルシュ、キョロカ・M・アンダーソン編 野中猛・白石弘巳 監訳	金剛出版
408	精神科ディケアマニュアル	宮田 勝	“
409	脳障害者の心理療法	小山充道	北海道大学図書刊行会
410	悪作と精神病	高畑直彦、七田博文、内潟一郎	“
411	児童虐待(危機介入編)	斉藤 学	金剛出版
412	これからの地域保健	厚生省健康政策局計画課監修	中央法規出版
413	子どもの虐待防止	児童虐待防止制度研究会編	朱鷺書房
414	老いの心と臨床	竹中 星郎	診療新社
415	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
416	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
417	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
418	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.HELLESTAD
419	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRIGHT
420	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS



〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
日本社会精神医学会	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャルワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論 (Vol32 No1~4, Vol33 No1~4)	心理学評論刊行会
心理臨床	星和書店
日本精神病院協会雑誌	日本精神病院協会
臨床精神医学	国際医書出版
精神障害と社会復帰	やどかり出版
公衆衛生	医学書院
季刊ゆうゆう	明文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
JDジャーナル	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリングI 基本的かかわり技法	前編
〃	II
〃	〃
〃	後編
老人ボケを防ぐには	
社会人としての言葉使いの基本	
作業療法 生活を拓ける治療と援助	
老人と飲酒	
アルコールと循環器	
肝臓とアルコール代謝	
あと一杯が飲めるか	
与越市つくしの里の実践から	
地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する	
こころの病をかかえて——精神障害者は今	
病院を出て街で働きたい 報道特集(1987年)	
君は空の青さを知っているか——精神障害者が地域で生きていくために	
今ここに生きる——精神障害者とともに	
災害と心のケアハンドブック	

そよ風はどこまで 全2巻

ひとりぼっちをなくそう

〈精神保健啓発用パネル〉

I 心の健康づくりシリーズ (7枚)

心の健康とは	心の問題はどこへ相談すればいいの？
心の病にかかる人はどれくらい？	心の健康づくり
心とからだ	生活環境とストレス
ライフサイクルと心の病	

II 社会復帰シリーズ (7枚)

社会復帰のための4要素	共同作業所とは
ディケアとは	家族会活動
共に生きる社会	
社会復帰のための社会資源—1. 制度—	
“	—2. 施設と活動—

III (ライフサイクル) 思春期シリーズ (5枚)

思春期の心	思春期のからだ
親ばなれ	子ばなれ
思春期の心の病のサイン	

IV (ライフサイクル) 老年期シリーズ (10枚)

老年期の心と体の特徴	老年期の心の病 (精神障害)
痴呆とは①	痴呆とは②
仮性痴呆	痴呆の予防
痴呆の介護①	痴呆の介護②
痴呆はどうして起こる	健やかなる老後

---

平成7年度版 こころの健康センター所報

平成8年10月 発行

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

〒514-11 久居市明神町 2501-1  
三重県久居庁舎1階  
電話 0592-55-2151

---